

319
404

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

始



各兵科用

最新砲兵戰術

(野砲兵聯隊野戰砲兵大隊以下ノ應用法並ニ原則對照法)

319-404



各兵科用

最新砲兵戰術

(野砲兵聯隊野戰砲兵大隊以下ノ應用法並ニ原則對照法)

大正
7. 10. 11
内交

序

- 一、本書ハ單兵種戰鬪法ノ概念ヲ修得セシ初心者ニ對シ講述セシ者也
- 二、別紙目次ニ提唱セシ四十一問題ノ原案ハ同人數名ト慎重ニ攻究シ往々世間ノ學說ニ超越セル者アルモ就中研究不充分ノ者無キヲ保セス識者ノ叱正ヲ得バ幸也
- 三、當初本書ハ謄寫版ニ依リ希望者ニ頒チシカ爾來多數希望者ニ對シ一々之ヲ謄寫セシメ其度ニ之ヲ校正スルノ勞ニ堪ヘス之ヲ印刷ニ附シ領ツコトトセリ
- 四、書中引用セシ戰史ハ往々先輩若クハ聯合軍ニ關シ辭氣稍不遜痛烈ニ巨ル者無キニシモ非サルモ固ヨリ是學術研究ニ資セント欲シ不覺筆端茲ニ及ヒシ者ニシテ全ク著者不文菲才ノ致ス所ナリ讀者請フ焉ヲ諒セヨ

大正七年九月

著 者 識

各兵科用 **最新砲兵戰術**

目次

一、想定（防禦セル敵ニ對スル砲兵ノ用法）……………一

第一問題

砲兵斥候カ八幡社南側高地上ニ在ルコトヲ所屬隊長ニ知ラシムルニハ如何ナル處置ヲナシ置クヘキカ

第二問題

砲兵斥候ハ前記上官到着後如何ナルコトヲナス可キヤ

二、情况（陣地偵察及前衛命令）……………三

第三問題

前衛砲兵大隊長カ大隊ヲ一群トシテ陣地ヲ占領シ得ルニ拘ラス一中隊ヲ分置セシ理由

第四問題

若シ大隊カ全部一ヶ所(山ノ中腹又ハ順天街北側)ニ陣地ヲ占領シタル場合ハ如何ニシテ今春附近ヲ射撃スヘキカ

第五問題

野砲兵大隊長ノ狀況判斷

第六問題

各種陣地ノ利害

第七問題

砲兵隊長ノ選定セシ陣地ハ適當ナリヤ

三、情況(中隊長招致ノタメ野砲兵第一大隊命令).....

第八問題

砲兵大隊命令受領後第一中隊長ノ處置

第九問題

四、情況(陣地占領ノタメ砲兵大隊命令).....

第十問題

砲兵大隊長ハ聯隊命令ナクシテ恣ニ大隊命令ヲ下セリ理由如何

第十一問題

大隊長ノ下セシ命令ハ教程ノ如何ナル條項ニ該當スルヤ

五、情況(砲兵聯隊長及師團長ノ行動).....

第十二問題

砲兵ノ隊長カ自己ノ隊ヲ離レ師團長ニ隨行シ來リシハ如何ナル原則ニ依ルカ

第十三問題(參考)

野砲兵隊陣地偵察計畫

第十四問題(參考)

重砲兵隊偵察計畫

第十五問題

砲兵隊長ノ偵察法ハ如何ナル原則ニ基クヤ

第十六問題

重兵カ特ニ敵情偵察ノタメ斥候ヲ配置セシ理由如何

六、情況（攻撃ノタメ師團命令）……………二八

○師團命令ニ基ク砲兵隊命令

第十七問題

砲兵命令ハ如何ナル原則ニ基キ下セシモノナリヤ

○野砲兵第一聯隊命令

第十八問題

歩兵聯隊ニ在テハ當初第一線ニ出ス兵力ハ成ル可ク節約セヨトアリ砲兵ニ於テモ狀況ニ依リ

大部又ハ一部ヲ控置スルコトヲ教ユ然ルニ全砲兵ヲ展開シタル理由如何

第十九問題

騎兵戰術ニ於テハ指揮官ハ部下ヲ努メテ手裏ニ掌握スル事ヲ學ビ又歩兵ニ於テモ密集隊形ハ指揮掌握ニ便ナル故狀況之ヲ許ス場合常ニ之ヲ採用スヘキヲ學ヘリ然ルニ師團命令及砲兵隊命令ヲ見ルニ何レモ砲兵ヲ分離シ殊ニ大隊毎ニ分割シ其正面三千米近クニ分布セリ是何故ナリヤ（往昔ト用法ノ異ナル所以）

第二十問題

重砲兵ヲシテ大ニ迂回シテ陣地ニ進入セシメシ理由如何

第二十一問題

聯隊段列ハ狹隘中ニ在ルヲ避ケヨトアリ然ルニ砲兵隊命令ニテ之ヲ谷地内ニ置キシ理由如何

第二十二問題

砲兵隊長カ最初八幡社南側高地（師團長ノ位置）ニ在ル理由如何（歐洲列強ノ聯隊長ノ位置）

第二十三問題

爾後桂山ニ赴キシ理由如何

第二十四問題

砲兵聯隊命令中第三大隊ニ將來永平附近ニ陣地變換ノ準備ヲ命シタルハ如何ナル原則ニ依ル

六

第二十五問題

騎兵ノ乘馬戰ニ於ケル騎砲兵カ陣地變換ヲ行ハサリシ理由

七、情況(重砲兵大隊命令)……………四三

重砲兵大隊命令ノ説明

第二十六問題

重砲兵大隊命令ハ如何ナル原則ニ依リシヤ

第二十七問題

砲兵聯大隊長ノ位置並ニ野砲兵第一大隊大中隊長ノ位置如何
及重砲兵ノ觀測所如何

八、情況(砲兵ノ射撃開始歩兵ノ前進攻撃間歩砲兵ノ協同)……………五一

第二十八問題

歩兵ノ前進ヲ起スヤ敵ハ猛烈ニ我ヲ砲撃シ多少ノ死傷者ヲ生セシ際砲兵ハ僅ニ若干中隊ニテ
敵ノ觀測所ヲ射撃シ其他ハ未タ敵兵現出シアラサル散兵壕ヲ射撃シ間モナク大部ノ砲兵ハ射
撃ヲ中止シ隱匿シアリシ觀アリシハ果シテ適當ナリヤ(歐洲戰ノ例證)

第二十九問題

此日ノ重砲兵ノ觀測所ハ敵眼ニ遮蔽シ廣ク被我中間地帯ヲ展望シ狀況ノ變化ヲ觀察シ且射撃
ノ觀測ニ差支ナキニ拘ラス更ニ大里ニ前進セシ理由如何

第三十問題

砲兵ハ現在ノ陣地ニ於テ尙任務ヲ達成シ得ルニ拘ラス態々敵火ノ損害ヲ犯シテ約三中隊ヲ前
方ニ陣地變換ヲナセシ理由如何

第三十一問題

敵砲兵ヲ發見スルヤ彈藥ヲ惜マス猛射セシハ如何ナル原則ニ依リシヤ

第三十二問題

一、目標ニ對シ他中隊ノ射撃ヲ妨碍スルコトナク數多中隊ノ射撃ヲ集中セシムル手段

目次

七

及戰例

第三十三問題

野砲兵第八中隊カ更ニ西庄附近ニ前進シ加フルニ北方ニ對シ全ク曝露シテ陣地ヲ占領セシ可否

第三十四問題 (參考)

斜射側射ノ効力大ナル證並ニ近距離射撃ノ効力大ナル證

第三十五問題 (參考)

全砲兵ヲ至近距離ニ配置スルノ不利ナル證

第三十六問題

敵騎ノ襲撃ニ對シ野砲兵第九中隊長カ獨斷目標ヲ變シ之ヲ射撃シタルハ如何ナル原則ニ依レルカ

第三十七問題

此危急ノ場合ニ際シ砲兵隊長及野砲兵第二大隊長カ依然舊目標ヲ射撃シアリシ理由如何

第三十八問題 (參考)

突撃時ニ於ケル砲兵各中隊目標分配要圖

第三十九問題

原案ノ突撃時ニ於ケル砲兵ノ射撃ヲ見ルニ火力ヲ攻撃點ニ集中セス分散シアリ其理由如何

第四十問題

射撃ノ混淆ヲ避クトイフニ拘ラス野砲ト重砲トカ同一地點ヲ射撃理由如何

第四十一問題

突撃ニ當リ砲兵ノ射撃カ歩兵ノ要求ニ充分應スル能ハサリシ理由如何

九、結論 (砲兵ニ對スル將來ノ希望)

七四

十、附錄

七七

一、師團長ノ砲兵使用ニ關スル意圖要圖

二、砲兵配置計畫要圖

三、攻撃各時機ニ於ケル砲兵ノ用法要圖

目次

九

八

- 第一期 攻撃準備時機
- 第二期 (準備) 歩兵大隊展開開始時機
- 準備
- 第二期 歩兵中隊散開開始時機
- 第三期 突撃準備時機
- 四、攻撃各期ニ於ケル各大隊ノ主要ナル動作
- 五、防禦セル敵ニ對スル砲兵中隊ノ動作中射撃ニ關スル要件
- 六、野砲兵某中隊射撃圖
- 七、野砲兵第八中隊戰鬪要報

凡例

書中、教一五、七行トアルハ大正六年度陸軍士官學校戰術學教程卷一第十五頁七行目ノ意ナリ

一、想定

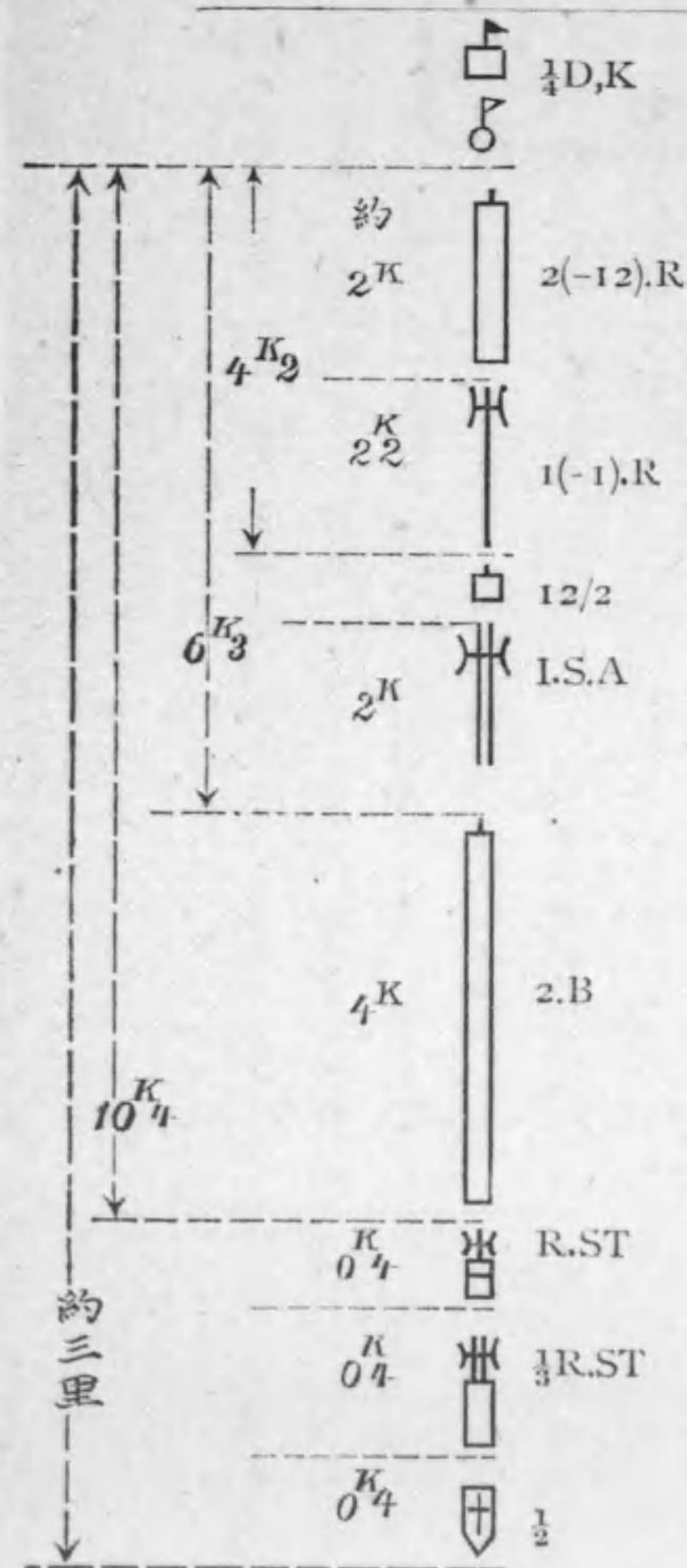
- 一、開平附近ニ在ル敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ東進中ナル第一師團(野戰重砲兵第一聯隊第一大隊ヲ附ス)ノ前衛(司令官少將某、歩兵第一旅團(第二聯隊缺)師團騎兵中隊、野砲兵第一大隊、工兵第一大隊衛生隊半部)ハ向屯順天街經テ東進シ其歩兵先頭ヲ以テ九月廿五日午前八時雄健山附近ヲ占領中ナリ
- 二、各進路並ニ敵情偵察ノ任務ヲ有スル砲兵斥候中尉(野砲兵下士一、兵卒二騎隨行)及S中尉(重砲兵下士一、兵卒二騎隨行)ハ何レモ前衛ノ先頭ヲ行進シアリシカ偶々八幡社南側高地ニ於テ相會シ敵情ヲ偵察中砲隊鏡ニ依リ次ノ事ヲ知り得タリ
- イ、南昌及抑屯西端ニハ敵兵工事中ニシテ其正面幅各三百米内外アリ
- ロ、開平西方高地ニハ正面幅二百米ノ工事二ヶ所ナリ
- ハ、△△南側ニハ八門ノ砲ヲシキモノアリ内二門ハ天空ニ投影ス
- ニ、敵ノ小部隊ハ良郷及大里附近ニアルモノノ如シ



註、野砲、重砲ヨ
リ各々斥候ヲ
出スハ理想ニ
アラス之ヲ兼
ネシムルヲ可
トスルモ目下
本邦教育ノ程
度ハ各別ノ派
遣ヲ要トス

ホ、南庄東南側ニハ角面堡ラシキモノヲ工事中ノ如キモ明瞭ニ認識シ難シ
 ヘ、順天街ヨリ八幡社南側高地ニ進入スルニハ山ノ昇リ口ノ部分長サ約百米間ヲ工兵一小隊ニテ約十分間作業セサレハ滑走シ易ク砲兵ノ通過困難ナリ又斥候ノアル〇〇曲線附近ニ昇ルニハ頂上附近ヲ更ニ工兵一中隊ニテ二時間内外ノ工事必要ナリ

三、師團本隊ノ行軍序列次ノ如シ

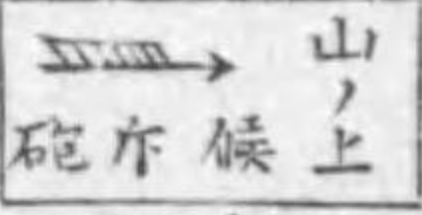


重砲兵ノ觀測團及師團電話隊ハ前衛ノ後尾ヨリ續行シタリ
 前衛ノ行軍長經ハ約五千米、本隊ト前衛トノ距離千五百米トス
 四、暫時ニシテ各砲兵斥候ハ前衛司令官及野砲兵大隊長ヲシキ乗馬者ガ八幡社南側高地ニ向テ斜板ヲ疾駆シ來ルヲ目撃ス

問題(宿題)

- 一、砲兵斥候カ八幡社南側高地上ニ在ルコトヲ所屬隊長ニ知ラシムルニハ如何ナル處置ヲナシ置クヘキカ
- 二、砲兵斥候ハ前記上官到着セハ如何ナルコトヲナス可キヤ
- 一、原案(所屬隊長トノ連絡法)
 - 1. 順天街中央ノ丁字路附近ニ各兵卒一騎ヲ殘シ所屬隊長ノ來リシトキ斥候ハ彼ノ山即八幡社南側高地ニ赴キシコトヲ報告セシム
 - 已ムヲ得サレハ通信紙ニ行先ヲ記シ要所ニ張り附ケ置ク

2. 順天街北端ノ丁字路ノ所ニハ通信紙ニ
二、原案(斥候ノ上官ニ對スル處置)



如ク記シ角ニ張リツケ置ク

1. 出迎ヘテ報告(立體兵棋盤ニツキ地點及敵情ヲ報告セシム)

2. 斥候ニ隨行セシ兵卒ヲシテ上官ノ乘馬ヲ持タシム(偵察ニハ下馬ヲ要ス)

注意▷◁南側ノ天空ニ投影スル敵砲兵ハ偽工事ノ疑アル判斷ヲナサシムルヲ要ス
(教程一六二頁ニハ砲兵ハ遮蔽ヲ可トス教程一七四頁七行偽工事砲火云々參照)

右ハ要スレハ問題トスルモ可ナリ

一、情 況

既ニシテ曩ニ前衛ノ砲兵大隊長ハ順天街西側附近ヨリ雄健山附近ノ陣地偵察ノ爲メ派
遣セシC少尉八幡山南側高地ニ來リ報告シテ曰ク雄健山附近ニハ三中隊分ノ陣地アル
モ彼我中間地帯ヲ充分射撃シ得サルコト又進入ノタメ約百米許敵ニ曝露スト

特ニ前面ノ敵兵ハ各方面共工事ヲ中止シタル者ノ如シ

午前八時二十分頃野砲兵第一大隊長少左ハ前衛司令官ヨリ次ノ要旨ノ命令ヲ受領ス

前衛命令

一、前衛ハ馬頭附近ヨリ雄健山ノ經テ八幡社附近ニ亘リ陣地ヲ占領シ師團ノ開進ヲ掩
護セントス

二、砲兵大隊ハ敵ノ出撃シタル場合遠ク之ヲ拒止シ且成ルヘク我陣地直前ヲ射撃シ得
ル如ク直ニ陣地ヲ占領スヘシ

工兵小隊ヲシテ陣地進入ヲ援助セシム

三、予ハ暫ク現在地ニアリ

此時迄ニB少佐ハ諸報告及自己ノ觀察ニヨリ尙左ノ事ヲ知レリ

イ、八幡社南側高地上ニハ約二百米ノ正面幅アリ

ロ、同地西南中腹ニハ約四中隊分ノ地幅アリ遮蔽シアルモ東方ニ對シテハ遮蔽面約
指一本乃至二本アルコト

ハ、大隊ハ目下向屯附近ヲ行進中ナルコト

茲ニ於テ大隊長ハ主力ヲ以ニ八幡社南方山ノ中腹ニ一中隊ヲ雄健山附近ニ配置スルニ決シ工兵隊長ニ之カ進入ノ援助ヲ乞ヒ又大隊副官ヲシテ段列ノ位置ヲ偵察セシメ砲兵斥候C少尉ヲシテ第一中隊ハ雄健山ニ其他ハ此高地ニ來ル如ク大隊ニ下令セシメ通信係ヲシテ大隊長ト雄健山ニ先ツ通信設備ヲナスコトヲ命セリ

六

第三 問題

大隊長カ大隊ヲ一群トシテ陣地ヲ占領シ得ルニ拘ラス一中隊ヲ分置セシ理由如何

原 案

一群トシテハ任務ヲ達成シ得サルヲ以テ也
教程ハ五四頁狀況ニヨリ中隊又ハ時トシテ小隊以下ニ分離シテ使用スルコトアリ
一五九頁、砲兵陣地ハ常ニ戦闘ノ目的及狀況ニ適合シ且同一陣地ヨリ戦闘ノ經過ニ伴

ヒ諸隊ノ任務ヲ達成シ得ルコト必要ナリ

然ルニ順天街北側高地ハ大隊ノ第一任務タル遠ク敵ヲ拒止シ得尙馬頭方面ハ近ク陣地前ヲ射撃シ得ルモ今春附近ハ遮蔽角ノ關係上近ク射撃シ得ス
又雄健山附近ハ前衛陣地ノ右翼ノ直前ノ射撃ニハ便ナルモ遠ク敵ヲ拒止シ及中間地帯ノ射撃ニハ不便ナリ依テ主力ハ順天街東北方ノ高地ニ一中隊ハ雄健山附近ニ配置スルコト必要ナリ(教程一四八頁遮蔽距離及遮蔽角要スルニ大隊カ一中隊ヲ分割シタルハ戦闘ノ經過ニ應シ諸般ノ任務ヲ達成スル必要上分離スルヲ必要ナル狀況ト判斷セシ故ナリ

第四 問題

若シ大隊カ全部(山ノ中腹又ハ順天街北側ニ)陣地ヲ占領シタル場合ハ如何ニシテ今春附近ヲ射撃スヘキカ

- 一、砲兵大隊長ノ狀況判斷
- 二、各種陣地ノ利害如何

第五、野砲兵大隊長ノ狀況判斷

註、習學者未ダ狀況判斷テ了解シアラズ故ニ解答ス下ノ如ク回答ス

(現在ノ程度ニテハ左ノ如ク分テ研究スルヲ可トセン)

- 問、敵カ出撃ストルトセハ其時機ハ速キヲ可トスルヤ遅キヲ可トスルヤ
- 答、速キヲ可トス是我ノ準備未タ整ハス本隊カ尙遠ク後方ニアル時機ニ乗スレハ勝算アレハ也
- 問、敵ノ主力ハ何レニ來ルナラン
- 答、雄健山又ハ其以南ニ來ルナラン是此方面ハ出撃最モ容易ナル故ナリ
- 問、八幡社ノ高地ヲ敵カ占領セハ我軍ノ受クル影響如何
- 答、前衛ノ陣地ハ自然瓦解スルニ至ラン
- 問、然ラハ敵ノ主力ハ八幡山ニ來ラサルカ

- 答、公算少シ是茲ニ來ルニハ△▽南側高地ヨリ山ヲ降テ來ル不便アルト陣地ハ瞰制ノ利アリ比較的堅固ナル故ナリ然レトモ有力ナル一部ハ來ルコトヲ覺悟セサルヘカラス

問、大隊ハ敵陣地攻撃ノタメ將來陣地變換ノ必要ナキヤ理由

答、有、是敵ヨリ4000以上アリテ充分効力ヲ收メ難キヲ以テナリ

問、然ラハ前衛砲兵ノ陣地ハ暴露ヲ可トスルカ遮蔽ヲ可トスルヤ

答、成ルヘク遮蔽シアルヘシ、是前衛全般ノ行動ヲ秘シ尙爾後ノ動作ノ自由ヲ得ンタメナリ

問、然ラハ此際砲兵ハ狀況ヲ如何ニ判斷スルヤ

答、砲兵ハ速ニ陣地ニ進入シ其陣地ハ遠ク敵ヲ拒止シ得ルノミナラス主力ヲ以テ雄健山以南地區一部ヲ以テ八幡社東側地區ヲ射撃シ得サルヘカラス、又放列ヲ遮蔽シアルヲ必要トス

第六 問題

各種陣地ノ利害、

- A. 進入ニ時間ヲ要シ狀況ニ適セス但展望瞰制ノ利アリ
- B. 任務達成ニ便ナルモ今春附近ニ對シ遮蔽距離大ナリ觀測所ハ容易ニ得ラル
- C. 觀測所遠シ馬頭方面ニ對シ遮蔽距離大進入容易
- D. 進入最容易、暴露陣地遠ク射撃ノタメニハ觀測所遠シ
- E. 馬頭及今春方面ヲ側防シ又遠ク敵ヲ射撃スルヲ得ルモ地域狭小ニシテ一大隊ヲ遮蔽スル能ハス又彼我中間地帯ヲ射撃スルニ不便ナルト雄健山東側ヲ射撃スル能ハス
- E' 1. 歩砲同線ノ害アルノミナラス暴露シアル故忽チ動作ノ自由ヲ失フニ至ル進入
- F. 2. 及近距離ノ射撃ニ便ナルモ敵砲兵良郷附近ニ進出シタル場合、全ク瞰制セラレ動作ノ自由ヲ失フ恐アリ

- H. 1. 進入後ハ諸隊ノ任務ヲ達シ得ルモ道路ナキ故進入最モ不便ナルト一側ニ偏在セル故掩護十分ナラス
- G. 1. 陣地直前ヲ射撃スルハ便ナルモ遠ク敵ヲ拒止スル能ハス即任務ノ達成困難ナルノミナラス、Hト同シク一側ニ偏在セル故掩護稍十分ナラス

第七 問題

砲兵大隊長ノ選定セシ陣地ハ適當ナリヤ

原 案

適當ナリ (教程一五九、砲兵陣地ノ選定ノ原則ニ合セリ)
理由 一、戰鬪ノ目的 (任務)

- 甲、遠ク敵ヲ拒止
- 乙、成ルヘク陣地前ヲ射撃副主、右翼、左翼

最新砲兵戰術

C.	B.	E.	E.	A.	上記ニ適スル陣地
B	C	D	A.	H.	
G	A.E.	G.	G.	E.	
E.	E.	G.	E.	C.	
A.	C.	E.	F.	C.	
H.	G.	B.	D.	G.	
D.	F.	C.		D.	
E.	D.			F.	

二、狀況

甲、速ニ諸般射撃準備ヲ完了シ得ルヲ要ス

乙、爾後ノ動作ノ自由ヲ確保スルヲ要ス

就中狀況ニ最モ適合セルハB Cノ陣地ナリ

任務達成ニ最モ適スルハA、B、及E、此二者ヲ比較スルトキハBノ陣地最モ可ナル

モ一ヶ所ノミニテハ前衛陣地ノ左翼ニ及ボス効力乏シ故ニ之ニ最モ適スルEニ

一部ヲ配置スルノ必要ナルヲ知ルヘシ

此際強テAニ陣地ヲ、求メントセハ戦闘ノ時機ヲ失スル恐アリ（教程一五九頁
参照）

三、情 況

野砲兵第一中隊長ハ大隊ヲ引率シ來リシカ向屯ニ達シタルトキ第二、第三中隊長亦大隊ノ先頭ニ來リ同行セシカC少尉前方ヨリ疾駆シ來リ次ノ大隊命令ヲ口達セリ

野砲兵第一大隊命令

一、敵ハ南昌附近ヨリ抑屯北方高地ニ亘リ陣地ヲ占領シアリ

前衛ハ馬頭ヨリ八幡社附近ニ亘リ陣地ヲ占領シ師團ノ開進ヲ掩護ス

二、大隊ハ第二第三中隊ヲ以テ八幡南方斜面ニ第一中隊ヲ雄健山附近ニ陣地ヲ占領シ敵ヲ拒止セントス

三、第一中隊ハG少尉案内ス

第二、第三中隊長ハ大隊長ノ許へ、軍曹某案内第一中隊ノ中隊段列ハ中隊ニ復歸ヲ命セラル

四、大隊長ハ八幡社南方高地上ニアリ

情 況

右下達終ルヤ斥候ハ更ニ第一中隊長ノ雄健山ニ赴クタメニハ同山附近ニ約百米暴露ス

ルコト並ニ大隊長ヨリ第一中隊ハ雄健山附近ニテ敵ノ出撃シタル場合遠ク之ヲ拒止シ且主トシテ前衛陣地ノ左翼前ヲ射撃シ得ル如ク命セラレタルコト又敵情ニ就テハ雄健山へ趣キ更ニ報告致シマスト言ヘリ

第八 問 題

第一中隊長ノ處置

一、原案

傍ニ在ル古參中尉二中隊ヲ三店ニ引率シ來ルコトヲ命ス(尙段列長ニ情況ヲ傳フルコトヲ命ス)

二、中隊段列長ニ第一中隊ノ段列ハ戰砲隊ニ續行三店ニ來ルコトヲ命ス

三、中隊ニ先行雄健山ニ偵察ニ赴ク(曹長一軍曹一喇叭手一隨行)

情 況

第一中隊長ハC少尉ト同行中工兵中尉Pニ會シ同中尉ヨリ工兵一小隊ハ第一中隊ノ陣

註、古參中尉ハ中隊長ノ後方ニテC少尉ノ命令ヲ聞知セリ

地進人ノ援助ヲ命セラレ三店北端ニ在リトノ報告ヲ受ケツツ共ニ馬ヲ飛シテ雄健山麓ニ達ス

問 題

第一中隊長カ雄健山到着後ノ處置

原 案 (一ツツ問答スルモ可ナリ)

一、下馬シテ山上ニ登リ少尉ニ敵情ノ指示ヲナサシム(教程一六六頁十行 敵ニ發見セラレサル注意)

二、次ニC少尉ヲ補助トシ自ラ左ノ偵察ヲナス(教程一六六頁偵察事項)

1. 中隊長ノ位置(中隊長位置一六六頁一行)之ヲ決定後一下士ヲシテ敵情ノ監視ニ任セシム

2. 遮蔽距離ヲ考ヘ(一六六頁三行及一四八頁遮蔽距離)

a 主線ヲ東方ニスル放列線(遠ク設ケ拒止)一六六頁一行

b 主線ヲ東北ニスル豫備放列線(前衛陣地左翼前射撃)

- 三、C少尉ヲシテ中隊段列ノ位置ヲ順天街東南側附近ニ偵察、(一六六頁)(段列ノ置、一六三頁五行、適時斥候ヲ使用云々)
- 四、工兵中尉ト共ニ進入路ヲ視察シ工事特ニ單簡ナル遮蔽工事ヲ迅速ニナスコト並ニ彈藥補充路ノ遮蔽工事ヲナスコトヲ請求ス(一六六頁七行及一四六頁一行、要スレハ遮蔽ヲ設ク)
- 五、大隊ヨリ差遣セシ通信班ニ通信所ノ位置ノ指定
- 六、C少尉ヲシテ偵察終了後雄健山上ニ於テ射擊團ヲ調製セシム(教、一四七頁四行、小隊長ニ射擊準備云々)
- 七、照準點八幡社ノ鳥居ノ向テ右ノ柱(二四七頁照準點)
- 八、一下士ヲシテ三店ニ派遣中隊ヲ案内シ來ラシム(一六六頁五行小隊長引率)
- 九、此間放列布置ノ方法ヲ考ヘ又曹長ニ前車馬彈藥小隊ノ位置並ニ遮蔽ニ關スル注意ヲ與フ(教一四五頁)
- 十、砲車隊到著スルヤ自ラ中隊ヲ指揮シ放列ヲ布置ス(一六六頁三行、中隊長指揮陣

地進入)

- 十一、右終テ照準點及射向ヲ附與シクル後迅速ニ觀測所ニ赴ク、中間ハ傳令ヲ配置ス(教六九行末行一七〇頁行連絡處置)
- 一二、大隊長ニ電話ニテ準備完了ヲ報告
- 十三、一下士ヲ以テ中隊段列長ニ段列ノ位置ヲ指定ス(一四五頁)且彈藥補充ノ際遮蔽ニ關スル注意ヲ與フ(工兵ノ設置セシ遮蔽物ヲ利用スルコト)
- 十四、警戒斥候ヲ派遣スル地點兵力ノ指示(一六六頁八行危險警ノ警戒)

次回ノ問題

敵陣地攻撃ノタメ將來野砲聯隊及重砲大隊ハ如何ニ使用スヘキカ之カタメ如何ニシテ敵情竝ニ陣地ヲ偵察スルヤ

四情 况

第一大隊長ハ次テ通信係將校ニ命シ第一中隊ト大隊長トノ連絡並ニ第三中隊ト同中隊長トノ間ニ通信設備ヲ命ス

(教程一六四頁十三行速ニ通信設備ノ完了ノ件大隊長ニモ適用シ得)

次テ學二第三中隊長八幡社南側高北ニ到着ス茲ニ於テ大隊長ハ次ノ命令ヲ下セリ

野砲兵第一大隊命令

- 一、基點 劉家嶺ノ白壁ノ二階屋ノ頂 白回
- 二、敵ハ基點ノ右二分離五十南庄附近ヨリ基點ノ左二分離七十△ニ亙リ陣地ヲ占領シ其詳細ハ別紙要圖ノ如シ(砲兵斥候ノ調製シタルモノトス)
- 三、大隊ハ敵ノ出撃シタル場合遠ク之ヲ拒止シ且成ルヘク前衛ノ陣地直前ヲ射撃シ得

ル如ク一部ヲ以テ雄健山主力ヲ以テ八幡社南側ニ陣地ヲ占領セントス

四、第一中隊雄健山

第二中隊茲ヨリ約百米南側道路東側

第三中隊第二中隊ノ南方間隔五十歩主線基點ノ右二分畫

第二第三中隊ハ特ニ基點ノ左ニアル高地ニ遮蔽スヘシ花ノ森以北ニ對シ千二百同地以南約千米ノ遮蔽距離トスヘシ

第三中隊長ノ位置ハ此左

中隊長ト放列間ノ話電ハ通信係架設中

五、段列ハ彼ノ處(八幡社西南約八百米畑地)

六、予ハ茲ニアリ八幡社東南側百米ノ高地

大隊長 某

第十 問 題

此ノ大隊命令ハ教程ノ如何ナル條項ニ基キ下セシモノナルヤ聯隊命令ナクシテ大隊命令ヲ下セシ理由如何

原案

教、一六三頁砲兵指揮官六四頁大隊長ノ動作ニ基ケリ蓋大隊長ハ前衛内ニ於テハ砲兵指揮官ノ動作ニ準シ行動セサルヘカラス又部下ニ對シテハ大隊長トシテ下命スルヲ要ス是聯隊長ノ命令ヲ待タス下命セシ所以ナリ

第十一問題

大隊長ノ下セル命令ハ教程ノ如何ナル條項ニ該當スルヤ逐條頁數及原則ヲ示シ

原案

一、基點 教程一八二頁十行目標指示ノ基點^⑤

二、敵情友軍ノ情況 教程一六四頁、一行彼我ノ情況^⑤

三、大隊ノ任務 教程一六四頁一行己ノ意圖
教程一六五頁一行大隊任務

四、各中隊ニ下令セシ件 教程一六四頁一行(部下各隊ノ占領區域戰闘任務)
教程一六五頁射擊區域(主線ノ兩側四十五度ハ射擊シ得)

各中隊ノ概略ノ位置

遮蔽ノ度大中隊ノ連絡法(要スレハ中隊長ノ位置指定)

五、段列ノ位置 教程一六五頁 三行ノ段列ノ位置

五、情況

午前九時頃砲兵聯隊長重砲大隊長ハ師團長ニ隨行シ八幡社南側高地ニ到着シ彼我一般ノ情況ヲ觀察シ且野砲兵第一大隊長及將校斥候ヨリ諸報告ヲ聽取ス

第十二問題

砲兵ノ隊長カ自己ノ隊ヲ離レ師團長ニ隨行シ來リシハ如何ナル原則ニヨルカ

原 案

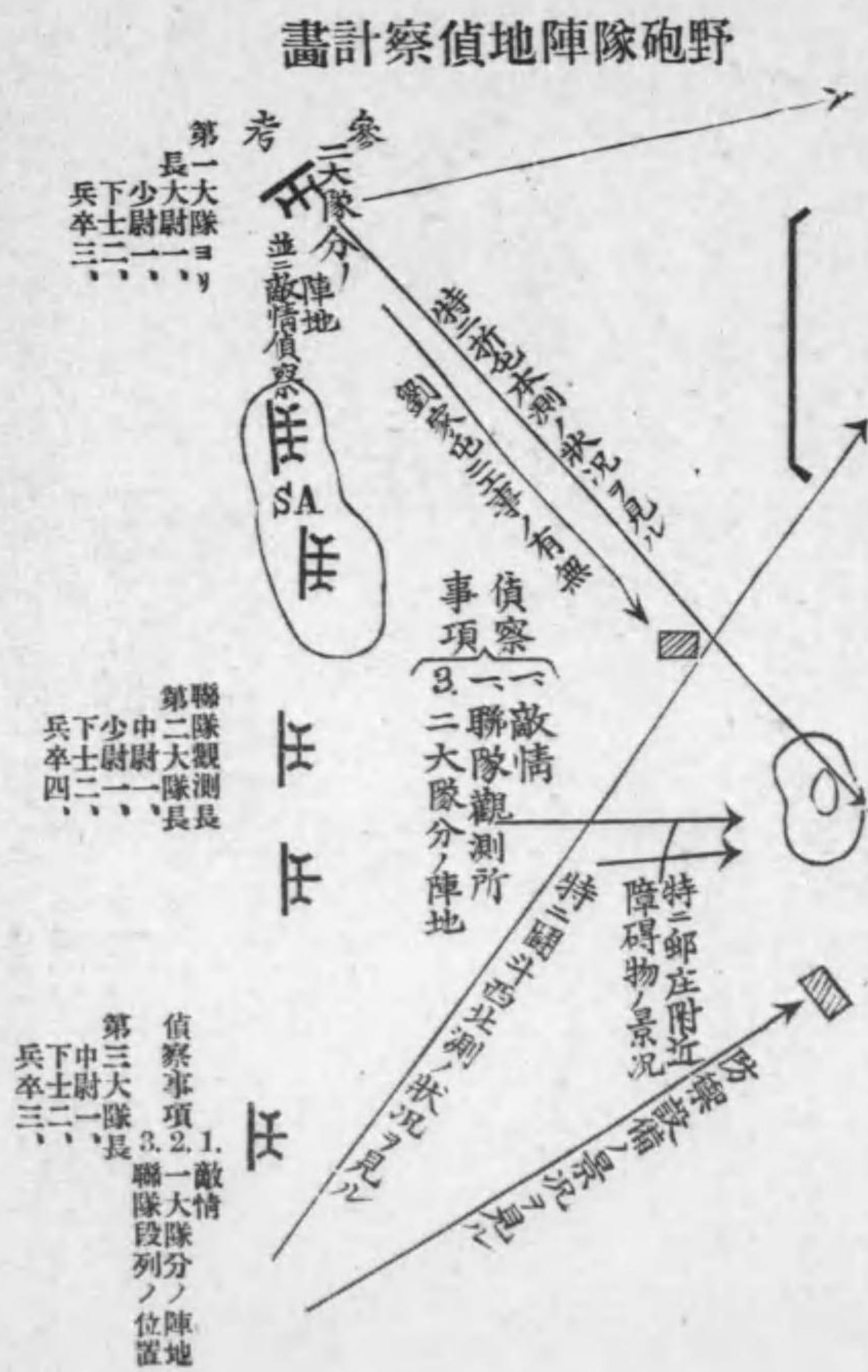
教程一六三頁九行砲兵指揮ハ戰闘ヲ豫期スル場合………

高級指揮官ニ隨伴ス

情 況

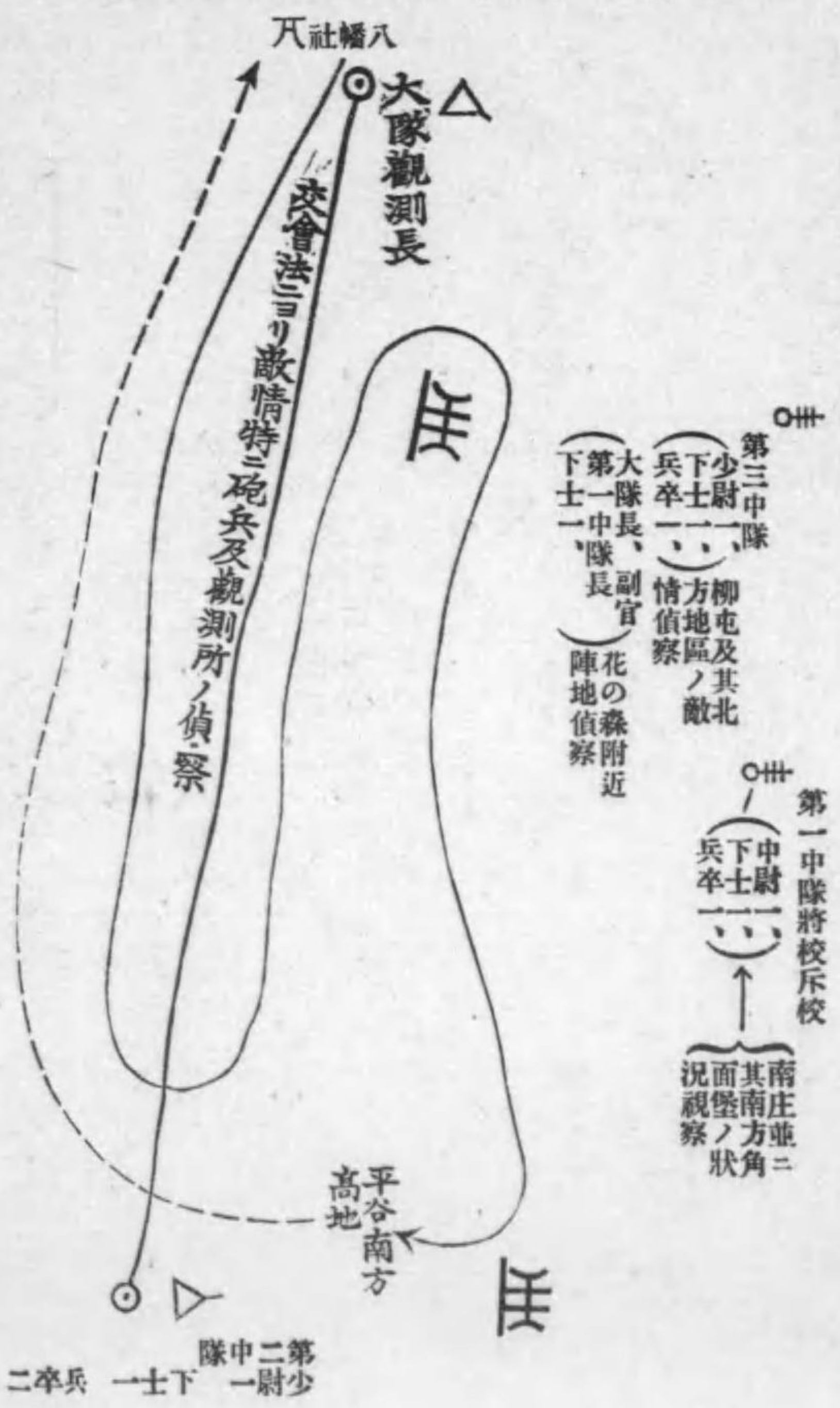
次テ師團長ハ兩砲兵隊長ニ師團ハ主力ヲ以テ南昌ヲ攻撃セントス兩官ハ此攻撃ニ協力スルタメ砲兵陣北ノ偵察ヲナシ午前十一時迄ニ現在地ニ報告スヘキコトヲ命セラル茲ニ於テ兩官ハ重砲及野砲陣地ヲ概要何レニスヘキヤヲ協議シ次テ重砲ハ花ノ森附近若クハ順天—永平道南側ニ野砲ハ其他ノ地區ニ選定スルニ決シ各隨行セシ砲兵斥候ヲ補助トシ偵察ニ著手シ野砲ノ主力ハ桂山附近一部ハ三軒家附近重砲ハ花ノ森西側附近ニ陣地ヲ選定シ之ヲ師團長ニ報告セリ

教程第六十二頁斥候ノ使用



重砲兵大隊偵察計畫

此間重砲隊長ハ特ニ八幡社ノ高地並ニ平谷東方高地ニ觀測斥候ヲ配置シ敵情ノ偵察ニ從事セシタメリ



第十五 問題

砲兵隊長ノ偵察法ハ如何ナル原則ニ基クヤ

原案

一、教程一六三頁三行陣地ノ偵察ニ相當ス

第十六 問題

重砲力特ニ敵情偵察ノ斥候ヲ配置セシ理由

原案

野砲ノ砲隊鏡ハ十五倍ナルモ重砲ハ二十五倍ニシテ精度大ニ良好ナリ且多數ノ通信機關ヲ有ス依テ二個ノ觀測斥候ヲ配置シ交會法ニヨリ目標ヲ確定セントスル主旨ニ基ク

(教、一八一頁二三行斥候ノ派遣)

(教、一六五頁 一五行 大隊長ハ目標及附近ノ地形……斥候ヲ派遣ス)
歐洲戰ニ於テモ如是地上觀測ハ極メテ重要視サレアリ目標ヲ發見シ得ル數ハ空中觀測
ヲ四〇トセハ地上觀測ハ六〇ノ價値アリ

六 情況

砲兵隊長ハ正午次ノ要旨ノ師團命令ヲ受領ス

第一師團命令九月二十五日午前十一時於順天街北方八幡社

軍隊區分

右翼隊

- 步兵第二旅團
 - 騎兵一分隊
 - 工兵一小隊
- 一、敵情別紙要圖ノ如シ
 - 二、師團ハ主力ヲ以テ南庄ニ向ヒ攻撃セントス
 - 三、右翼隊ハ柳屯(含ム)以南ノ敵ニ對シ良郷花ノ森間ニ展開シ攻撃ヲ準備スヘシ
 - 四、左翼隊ハ右翼隊ニ續行谷地ヲ利用シ花ノ森以北ニ

左翼隊

- 步兵第一旅團
 - (第一聯隊第三大隊欠)
 - 騎兵一分隊
 - 工兵一小隊
 - 砲兵隊
 - 長砲兵大佐某
 - 野砲兵第一聯隊
 - 重砲兵第一大隊
 - 騎兵隊
 - 師團騎兵中隊
 - 豫備隊
 - 步兵第一聯隊(第三大隊欠)
- 進出シ右翼隊ニ連繫シ劉家屯及以北地區ノ敵ニ對シ
三軒家附近ニ亘リ展開攻撃ヲ準備スヘシ
五、兩翼隊ノ戰鬪地域ノ境界ハ平田大里―家屯ヲ連スル線トシ線上ハ左翼隊ニ屬ス
六、砲兵隊ハ一部ヲ以テ左翼隊主力ヲ以テ右翼隊ノ攻撃ニ協力シ得ル如ク野砲兵ノ主力ハ桂山附近一部ハ三軒家附近ニ重砲兵ハ花ノ森附近ニ陣地ヲ占領スヘシ
且將來攻撃ノ進捗ニ伴ヒ一部ノ砲兵ヲ更ニ前進セシメ友軍ト適切ニ協カスヘシ
工兵大隊ヲシテ陳地ノ進入ヲ援助セシム
七、騎兵隊ハ主力ヲ以テ師團ノ右側ヲ一部ヲ以テ左側ヲ警戒スヘシ

註、ハ敵部ヲ有シ且前法
此ハ敵部ヲ有シ且前法
爲シテ豫備隊ノ前
衛ヲシテ豫備隊ノ前
カテシテ豫備隊ノ前
ニカテシテ豫備隊ノ前
攻テシテ豫備隊ノ前
テシテ豫備隊ノ前
利シテ豫備隊ノ前
動シテ豫備隊ノ前
如是セリ

工兵第一大隊(二小隊欠)

- 八、豫備隊ハ馬頭西側谷地ニ位置スヘシ
但、舊、前衛ノ主力ハ諸隊カ概攻撃準備ノ位置ニ就キ
タル後陣地ヲ撤シ又工兵大隊ハ砲兵ノ陣地進入ヲ援
助シタル後一部ヲ兩翼隊ニ分屬シ後主力ハ豫備隊ニ
合スヘシ
- 九、衛生隊ハ各半部ヲ以テ勇村及大里附近ニ綑帶所開
設野戰病院ハ順天街中央附近ニ開設スヘシ
- 十、歩兵砲兵彈藥縱列ハ午前四時順天街西南端附近ニ
於テ彈藥ヲ分配スル筈
- 十一、予ハ八幡社南側高地ニアリ
但報告蒐集所ヲ順天街中央ニ設ク

師團長 某中將

下達法

評、印刷ノ實施困難ナラン(著者)

印刷命令ヲ與フ

砲兵隊ニハ各中隊ニ一葉宛死ノ割合ニ與フ

情況

右ノ命令ヲ受領スルヤ砲兵隊長ハ次ノ命令ヲ下セリ

砲兵聯命令九月二十五日午前十一時三十分於八幡社南側高地

註、從來砲兵隊ハ………攻撃ヲ………
一、援助セントス
二、一ト云フシ
カ語氣弱シ本
命令ノ如ク攻
撃ニ協力セ
トス

一、敵情及友軍ノ情況ハ別紙師團命令ノ如シ

二、砲兵隊ハ桂山附近及花ノ森附近ニ陣地ヲ占領シ主トシテ右翼隊ノ攻撃ニ協力セン
トス

三、野砲兵聯隊ハ第二第三大隊ノ順序ニテ並木道ヨリ郭家ヲ經テ桂山附近ニ進入

第一大隊ハ重砲隊ノ陣地進入後現陣地ヲ撤シ並木道及谷地ヲ經テ三軒家附近ニ進入

最新砲兵戰術

註、砲兵隊長カ段
列ノ位置及直
入ヲ示セシメ
治推隊防ノタ
メ也

スヘシ

野砲兵聯隊段列ハ砲兵隊全部陣地進入後郭家西南側谷地ニ位置シ特ニ開平北方高地
ニ對シ遮蔽シアルヘシ

四、重砲兵大隊ハ野砲兵第三大隊ニ續行豫定陣地ニ進入スヘシ

工兵第一中隊(一小隊欠)ヲシテ陣地進入ヲ援助セシム

又重砲兵聯隊段列ハ野砲兵聯隊段列ニ續行シ後分進シテ勇村北方谷地路外ニ位置セ
シムヘシ

五、予ハ八幡社南側高地ニ在リ後桂山北端ニ到ル重砲トノ連絡ハ重砲隊ノ負擔トス

砲兵隊長 某大佐

第十七 問題

右ノ命令ハ教程ノ如何ナル原則ニ基キ下セシモノナルヤ

教程百六十三頁 砲兵指揮官ノ條下ニ示ス原則ニ基ク

情況

次テ野砲兵第一聯隊長ハ次ノ聯隊命令ヲ下セリ

野砲兵第一聯隊命令

一、各大隊ノ陣地並ニ戰鬥任務次ノ如シ

第一大隊 現在地附近ニ在テ師團ノ攻撃準備ノ位置ニ就クヲ掩護ス

後並木道ヲ經テ三軒家附近ニ陣地占領主トシテ左翼隊ノ攻撃ニ協力

▷◁ 南方高地ニ對シ遮蔽スヘシ

第二大隊 桂山附近最初敵ノ砲兵ヲ求メテ之ヲ制壓後攻撃點ヲ正面ヨリ射撃

最新砲兵戰術

第三大隊

鳥ノ森東南方地區主トシテ右翼隊ノ攻撃ニ協力

但將來大部ヲ以テ永平附近ニ進出シ歩兵ニ協力シ得ル如ク準備

二、重砲兵隊ハ主トシテ本庄塹壕ヲ破壊スル等

下達法

此命令ハ口達筆記セシム又重砲兵ニハ一通筆記シタルモノヲ送附ス

次回ノ研究問題

右ノ師團命令並ニ砲兵聯命令ニ關シ教程原則ト照合シ置クヘシ

第十八問題

歩兵聯隊ニ在テハ當初第一線ニ出ス兵力ハ成ル可ク節約セヨトアリ砲兵ニ於テモ狀況ニ依リ大部又ハ一部ヲ控置スルコトヲ教ユ(教一五二頁四行目)然ルニ全砲力ヲ展開シタル理由如何

原案

教、百五十二頁三行「適時優勢ナル火力ヲ發揚スルタメ砲兵ノ全部ハ敵ニ先チ射撃ヲ完了スルコト緊要ナリ」トアリ此陣地ハ概、三千米外ニシテ同一陣地ヨリ諸般ノ任務ヲ達成シ得ル故(教五九頁九行)敢テ控置ノ必要ナシ但八幡社南側ノ第一大隊ノ陣地ハ過遠ニシテ諸般ノ任務達成ニ困難ナリ故ニ陣地ヲ變換スル如ク師團命令ニテ示シ之ニ應シテ砲兵隊長カ之ヲ前方ニ進メシナリ(教一八五頁八行、陣地變換ハ高級指揮官ノ命令云々)

第十九問題

騎兵戰術ニ於テハ指揮官ハ部下ヲ努メテ手裏ニ掌握スルコトヲ學ヒ又歩兵ニ於テモ密集隊形ハ指揮掌握ニ便ナル故狀況之ヲ許ス場合常ニ之ヲ採用スヘキヲ學ヘリ然ルニ師團命令及砲兵命令ヲ見ルニ何レモ砲兵ヲ分離シ殊ニ大隊毎ニ分割シ其正面三千米近ク

ニ分布セリ是何故ナルヤ

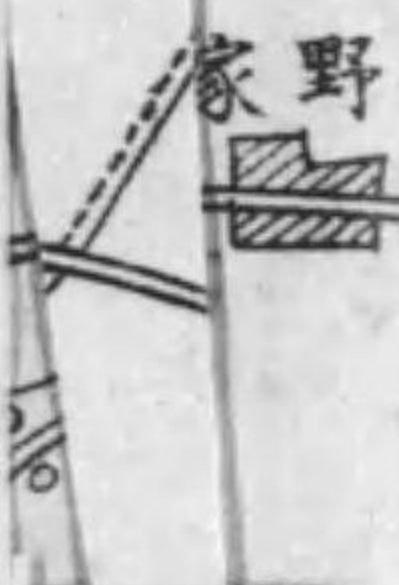
原案

註、射程短
昔、射程短
モアサリシ
ク通信網發達
時代砲兵ナリ
地ニ砲兵ナリ
使用セシ理由
ナ了解シ得ハ
百門ニ近キ砲
ヲ一集合トア
用セシコトア

教、一五四頁五行 大ナル砲兵部隊ニ在リテハ一速不斷ノ陣地ヲ占ムルコトヲ勉メテ
建制ヲ保チ指揮ノ統一ヲ害セサル限リ之ヲ數群ニ配置スルヲ有利トス是地形ノ利用ヲ
便ニシ且、敵火ノ効力ヲ減殺シ得ルノミナラス尙火力集中ノ効果ヲ收ムルコトヲ得レ
ハナリ……通常大隊毎ニ一群トシテ使用スルモノトスニ依レリ

而テ騎兵ハ乘馬戰ニ於テハ團結鞏固ヲ特ニ必要トシ(教百十七頁二行)又歩兵ニ於テハ
有効射程短キ故ニ分散シテハ火力集中ノ效果ヲ收ムル能ハス當初ヨリ目標ニ對シ正面
シテ精密ニ戰鬪正面ヲ確定スルヲ必要トス(教、六四、七行)而シテ砲兵ト雖モ分離ノ度
ヲ過クルハ指揮掌握ニ不便ナルモ一地ニ固定シアル故電話等ヲ利用シ得ルコトハ歩騎
兵ヨリ遙ニ容易ナリ是レ比較的廣ク數群一分離セシ所以ナリサレト成ルヘク主力ハ掌
握ニ便ヲ主トシテ協力スヘキ右翼隊ト密接ニ連繫センタメ桂山附近ニ二大隊ヲ配置セ

各兵科用



シナリ

第二十問題

重砲兵ヲシテ大ニ迂回シテ陣地ニ進入セシメ理由如何

原案

教、二〇五頁一行、敵眼ニ遮蔽シ我動運ヲ秘匿セシメンメタリナリ此際地質堅固ノ度ハ直路ヲ取ルモ迂路ヲ採ルモ大ナル差ナシトセリ

第二十一問題

教、一八八頁ニ依レハ聯隊段列ハ「狹隘中ニ在ルヲ避ケヨ」トアリ然ルニ砲兵命令ニテ之ヲ谷地内ニ置キシ理由如何

原案

敵一八八頁ノ左ノ各項ニ基ケリ

- 1. 敵彈ノ危害ヲ蒙ルコト少シ
- 2. 陣地ニ接近
- 3. 交通自在發見容易

然モ並木ト谷地トノ關係上遮蔽容易

又谷地ナル故一種ノ狹隘ナルモ彼ノ山中ノ道路ニテ交通不便ナル所ト異リ進退容易、
狹隘ノ不利ヲ被ルコト少シ是レ茲ニ選定セシ所以ナリ

又重砲ト野砲ト聯隊段列ヲ別々ニシ且ツ何レモ側方ニ置キシハ放列ニ來ル敵彈ノタメ
同時ニ段列ヲ害セラレサルタメナリ

第二十二問題

砲兵隊長カ最初八幡社南側高地ニ在ル理由如何

原案

敵、一六九頁一、二行ノ大ナル砲兵團隊ノ指揮官ハ狀況ニ依リ高級指揮官ノ許ニ位置
スルヲ有利トスルコトナリ

又敵一六九頁二行聯隊長ハ一般ノ戰況ヲ觀察シ上級指揮官トノ連絡ヲ確保シ部下大隊
ノ指揮ニ尤モ便ナル地ニ位置スヘシ云々

然ルニ攻撃準備ノ位置ニ就ク時ヲ考フルニ友軍カ展開シ終ルニ先チ敵ノ出撃スルコト
尤モ願慮セサルヘカラス之ニ對抗シ得ルハ第一大隊ノミナリ而シテ大隊長ハ八幡社南
側高地ニ師團長モ尙同所ニ在リ故ニ狀況ノ變化ニ應シ直ニ適切ノ處置ヲナスニハ茲ニ
在ルヲ最モ便トス

第二十三問題

註、歐洲列強ノ砲
兵隊長ハ下
常師團長ノ
位置シアリ

原案

騎兵ノ乗馬戰瞬速ニシテ多クモ十數分ニシテ勝敗決ス。高地ヨリ三軒屋ニ陣地變換ヲナシ射撃ヲ開始スル迄ニハ少クモ四、五分間ヲ要ス、此間射撃ヲ中絶セサルヘカラス又小隊毎ニ陣地變換ヲナセハ此間射撃ニ任スルモノハ僅ニ二門ニテ中隊カ全ク三軒房ニ陣地變換ヲ終ルニハ十分内外ヲ要シ此間勝敗遂ニ決スルニ至ルヘシ故ニ教、一八四頁ニ戒メテ曰ク

「陣地變換ハ何レノ場合ヲ問ハス一時射撃ヲ中絶スルヲ以テ安ニ之ヲ行フヘキモノニアラス」ト

而シテ歩兵ノ陣地攻撃ハ日露戰ニ於ケル南山ノ戰鬪カ三師團ヲ以テ僅ニ一旅團以下ノ兵力ヲ以テ守備セル露軍ニ對シ十數時間ヲ要シ又得利寺ニテハ半日以上ヲ要シ歐洲戰ニテハタンネンベリヒノ會戰ニ於テ獨軍後備六聯隊ノ守備セシ陣地ニ對シ露ノ三軍團二十四聯隊ヲ數日間力攻シテモ陷落セサリシ其戰鬪經過ノ遲緩ナル騎兵戰ト雲泥ノ差

アルコトヲ銘心スヘシ

七、情況

重砲兵大隊長ハ師團命令及砲兵命令ヲ受領スルヤ各中隊長（八幡社東側高地ニ招致シアリ）ニ次ノ命令ヲ下セリ

大隊命令

- 一、基點 第一、柳屯南方無名詞ノ抽出樹
 - 第二、第一基點ノ指十本左敵砲兵ノ向テ右ナル笠松
 - 二、敵情及友軍ノ情況別紙師團命令ノ如シ
 - 三、大隊ハ野砲兵第三大隊ニ續行シ馬頭附近ヨリ分進
- 花ノ森西側ニ主線ヲ第一基點ノ指二本左（柳屯）陣地占領主トシテ南昌附近ノ敵陣地ヲ破壊セントス

四、大隊觀測所ハ茲各中隊觀測所第一中隊右方約三十步第二中隊左方約三十步第三中隊其左約五十步

五、各中隊ノ監視區域

第一中隊第一基點ノ指二本左ヨリ以南地區

第二中隊第一第二基點間

第三中隊第二基點ノ指二本右ヨリ以北地區

六、大隊觀測長ハ茲ヨリ順天街ヲ經テ桂山ノ野砲兵聯隊觀測所ニ豫メ電話線ヲ加設並ニ觀測所ニ於テ敵情監視特ニ第一基點ノ南方地區ニ注意スヘシ

七、予ハ今ヨリ放列ニ赴ク各中隊及聯隊段列長隨行副官ハ砲兵隊長ノ許ニ連絡トシテ殘留

下達法

口達

說明

一、敵情ハ既ニ八幡社ノ高地ニテ各中隊長ニ概略實際ニ指示シアルモノトス

二、大隊觀測所ト各中隊觀測所ヲ一地ニ指定セシハ教二百四頁三行一五行ノ原則ニ依ル野砲ト異ルハ重砲ハ野砲ヨリ多數ノ電話線(砲兵ハ大隊ニハ重砲ハ大隊合計84本)及通信機ヲ有シ遠隔觀測所ノ射擊ニ習熟シアル故ナリ

三、監視區域ヲ示セシハ大隊ノ陣地進入迄ハ尙時間アル故此間ニ敵情ヲ一層綿密ニ偵察スルタメ各中隊ニ配當シ尙南昌及其南方地區ハ師團ノ主攻擊點ニシテ重要ナル故大隊觀測長ニ特ニ之ヲ示セリ

四、大隊觀測長ニ砲兵隊長トノ電話架設ヲ命セシニ重砲ニテハ觀測長カ野砲ノ觀測係及通信係將校ヲ兼務セル故ナリ

但野砲ニテハ各中隊ニハ之等ノ士官ヲ缺クニ拘ラス重砲ニテハ各中隊ニモ觀測小隊長(士官)アリ

五、大隊命令中觀測所ニテ主線ノ方向ヲ示セシハ敵及放列ヲ共ニ觀測所ヨリ通視シ得ル故ナリ

情 况

重砲兵大隊長ハ以上ノ命令ヲ下スヤ各中隊長ハ觀測小隊長ヲ觀測所ニ留メ敵情ノ監視並ニ放列線決定後ノ射擊準備ヲ命シ通信線路ヲ指定シ各下士並ニ觀測手(57)及通信手ノ一部ヲ從ヘ隨行又聯隊段列長モ小隊長一名及傳令ヲ率井速歩ニテ大隊長ニ隨行馬頭ヨリ北折シ並木道ヲ北進ス此際工兵中隊長モ隨行セリ
途中勇村北方三百米ノ谷地ニ段列ヲ位置セシムヘキコト並ニ其進入時機ハ野砲兵聯隊段列ニ續行シ馬頭ヨリ分進スヘキコトヲ命令シ次テ花ノ森西側ニ至ルヤ次ノ大隊命令ヲ下セリ

重砲兵第一大隊命令

- 一、首線此方向
- 二、第二中隊 茲

第一中隊 此右

第三中隊 此左

各中隊ノ間隔五十步

第三中隊ハ第二基點方向ニ特ニ遮蔽スヘシ

三、進入順序第三第二一中隊

四、中隊段列ノ位置ハ第一中隊ノ右翼ヨリ約二百米聯隊段列トノ中間

五、工兵中隊ハ各中隊ノ放列線ヨリ道路ヨリ進入ニ便ナル如ク道路ヲ修理シ又第三中

隊ノ彼ノ高地ニ充分遮蔽スル如ク遮蔽物ヲ設ケ後三軒屋附近ニ進入スヘキ野砲兵大

隊ノ陣地進入ヲ援助スヘシ

六、予ハ今ヨリ觀測所ニ到ル

下 達 法

口 達

第二十六 問題

重砲兵大隊命令ハ如何ナル原則ニ依リシヤ

- 一、各中隊ノ位置ヲ概示シ間隔ヲ示シタルハ教、一六五頁二行
教百六十頁約五十歩ヲ有利云々
- 二、進入順序ヲ示セシハ右ヨリ建制順ニ進入セシムル爲特ニ第三第二第一ノ順序ニ
進入スルヲ必要トスト教示セリ教百六十五頁三行ニハ進入路トアルモ此場合一ツ
ノ進入路ナル故順序ヲ示サザルヘカラス
- 三、中隊段列ノ位置指定教程一六五頁三行目特ニ之ヲ第一中隊ノ右翼ニ選ミシ理由
ハ百八十七頁七行ノ主旨ニ基ク他聯隊段列トノ交通及敵ニ對スル遮蔽ヲ考ヘタリ
蓋第三中隊ノ段列ハ放列ノ左翼ニ在ルヲ便トスルモ遮蔽ノ點ヨリ考フレハ稍モス
レハ發見セラル、恐アリ是レヲ一括シテ南方ニ選ミン所以也
- 四、工兵ニ進入路ノ修理及遮蔽工事ヲ命セシコト
教、十四頁工兵ノ特性ハ技術的能力云々其作業力ヲ利用セシナリ
遮蔽工事又然リ而シテ此遮蔽ノ必要ナルハ遮蔽陣地(教百六十二頁四行)ノ利ヲ得

ル爲ナリ他ノ中隊ハ遮蔽角大ニシテ充分遮撃ノ利アルモ第三中隊ハ高地ヨリ火光
ヲ認視セラル恐アル故特ニ遮蔽ニ關スル注意ヲナシ(教百六十五頁二行)又之ヲ
工兵ニ命セシナリ

情 況

午後一時三十分項諸隊ハ攻撃準備ノ位置ニ就キ野砲兵第一大隊モ亦新陣地ニ就ケリ茲
ニ於テ師團長ハ歩兵ニ攻撃前進砲兵ニ射撃開始ヲ命ス

第二十七 問題

砲兵聯大隊長ノ位置並ニ野砲兵第一大隊大中隊長ノ位置如何

原 案



野砲兵聯隊長ハ既ニ研究セシ所ニ基キ部下ニ大隊カ桂山附近ニ陣地ヲ占領シ且師團長トノ通信設備(師團電話隊擔任尙重砲兵大隊ヲ仲介トシ連絡シ得)成ルヤ直ニ桂山ノ聯隊觀測所ニ赴クヲ要ス

註、歐洲列強ニテハ目下ハ師團長ノ許ニアリ是部下ノ通信設備非常ニ完備セシ故ナラン

八、情 況 (卷末野砲兵第八中隊戰鬪要報ヲ併讀スルヲ要ス)

歩兵ノ攻撃前進ヲ起スヤ敵砲兵ハ所在不明ノ處ヨリ盛ニ之ヲ砲撃ス砲兵ハ其位置ヲ發見スル能ハサルモ抑屯ノ北方高地ニ掩蓋ヲ有スル觀測所數ヶ所アルヲ知り重砲ヲシテ之ヲ破壞セシメ野砲ハ逐次主要ナル地點ニ對シ試射ヲ行ヒ尙敵砲兵ノ發見ニ努メ試射終ルヤ射撃ヲ中止シ機ノ來ルヲ待ツ勇敢ナル我歩兵ハ友軍砲兵ノ協力ヲ缺キ然モ敵彈雨下死傷續出スルヲ意トセス決意前進ス

此間砲兵隊長ハ野砲兵第一大隊長ニ一部ヲ以テ將來大里附近ニ陣地變換ヲナスヘキコトヲ命シ各大隊長ハ前進路ノ偵察及連絡斥候ヲ第一線隊長ノ許ニ派遣シ重砲兵ハ大里附近ニ前進觀測所ノ設備ヲ命シ既シテ歩兵大隊ノ展開ヲ終ル頃砲兵ノ一部ハ敵火ヲ犯シテ前方ニ陣地ヲ變シ歩兵中隊ノ散開時機ニハ概ネ新陣地ニ進入シ將ニ射撃ヲ開始セシ敵歩兵ヲ射撃ス此頃敵砲兵ノ一部ハ新ニ柳屯東方及東北方ヨリ我第一線ヲ猛射シ爲ニ我歩兵ノ前進停止セシカ我砲兵ハ始メテ敵砲兵ヲ探知シ俄然猛烈ナル集中火ヲ施セ

ヘカラサル所以ナリ(教、百七十九頁十六行)

二、敵ノ觀測所ヲ破壊シタルハ是敵砲兵ノ自由ヲ奪フ以所ナリ(教、百八十頁)

四、此觀測所ノ破壊ニ若干中隊ノミヲ使用シタルハ必要以外ノ砲數ヲ使用セサルタメナリ(教、百七十五頁使用スヘキ砲數)

五、重砲ヲ使ヒシハ觀測所ノ破壊ハ野砲ニテハ困難ト推定セシ故ナリ(教、百八十一頁、七行堅固ナル術工物ニ對スル破壊射撃ハ主トシテ野戰重砲兵ノ任トス)

五、敵ノ現出セサル散兵壕ニ對シ射撃セシハ豫メ試射ヲ完了シ敵ノ現出スルヤ最初ヨリ効力射ヲナサン爲ナリ(教、百四十九頁末行)

蓋敵ノ現出ヲ待チテ試射ヲナシ以テ効力射ヲナスハ試射ノ時間タケ時間ヲ徒費ス

教程百五十頁十四行ニ曰ク

砲兵ハ……常ニ機先ヲ制シ適時適所ニ優勢ナル火力ヲ發揚スルヲ原則トス云々

六、試射完了後射撃ヲ中止セシハ決勝ノ時機ニ最大威力ヲ發揚スルタメ戰鬥力即彈藥節用ノタメ効果乏シキ射撃ヲ行フコト待機ノ姿勢ニ移リシナリ(教、百五十一頁末行決勝ノ時機迄戰鬥力節用教百七十三頁、射撃指揮要件同射撃ノ時機十行目、砲火ノ緩急……彈藥ノ浪費云々)

七、尙如何ニ努力スルモ初期ニ於テハ敵砲兵ノ位置全ク不明ナレハ射撃スルハ甚不可ナリ

而テ日露戰役中大石橋ノ戰鬥ニ於テ某砲兵團ハ半日間無効ノ射撃ヲナシ又近ク青島ノ前進陣地ノ攻撃ニ於テ野砲、重砲各一聯隊ヲ以テ敵砲兵一中隊ニ對シ彈丸ヲ亂射シ更ニ損害ヲ與フル能ハス又歐州列強ノ如ク豊富ナル彈藥ヲ有スル者モ此散布射撃ヲ嚴禁セル所以ニシテ教程百七十四頁ニモ射撃ハ必ス確認セル目標若クハ信スヘキ徵候ニ依リ又敵ノ位置ト判定シ

タル地域ニ對シ行フモノトス

若シ夫レ此際敵砲兵猛烈ニシテ我砲火ノ効力無キタメ否我砲兵ノ大部カ射撃セサルノ故ヲ以テ歩兵カ前進スル能ハストセハ全ク歩兵ノ本能ヲ有セサル未熟ノ軍隊ナリトス、教程第十頁十行ニ曰ク

歩兵ノ特性ハ地形及時期[○]如何ヲ問ハス攻撃防禦ノ二力ヲ兼備シ……自ラ能ク戦闘ヲ準備シ且之ヲ遂行シ得ルニ在リ

以上ノ研究ニ依リ砲兵ノ動作ハ己ヲ得サル處置ニシテ此際適當ナル動作ト判定シ得ヘシ

歐州戰ニ於テハ目下毒瓦斯彈ヲ以テ敵砲兵ヲ制壓シツツアリ又敵砲兵ノ撲滅ハ航空機ヲ併用スルモ尙少クモ半數ノ敵砲兵ハ射撃ヲ免レ平然トシテ動作シアリ是遮蔽設備完全ニシテ全然其位置ヲ發見シ能ハサルモノ並ニ之ヲ發見スルモ航空機ト地上トノ連絡不十分ナルタメ多數航空機ヲ同時ニ使用シ得サルタメナリ

第二十九 問 題

此日ノ重砲兵ノ觀測所ハ敵眼ニ遮蔽シ廣ク彼我ノ中間地帯ヲ展望シ狀況ノ變化ヲ觀察シ且射撃ノ觀測ニ差支ナキニ拘ラス更ニ大里ニ前進セシ理由如何

原 案

現觀測ヨリハ大里ノ方大ニ敵ニ近ク射撃ノ觀測頗ル容易ナル故ナリ教程二〇三頁九行、能我射撃ヲ觀測シ云々又同十二行、完全ニ其任務ヲ盡ス能ハサルトキハ適時陣地ノ前方若クハ云々

◎又重砲兵操典第一部第四百七十二曰ク

突撃ノ機漸ク近クニ至レハ射撃ヲ中絶セサル顧慮ヲ以テ大隊及各中隊ノ觀測所ヲ適時前進セシメ猛烈ナル射撃ヲ以テ突撃ノ機會ヲ作爲シ其實行ヲ有利ニ援助セサルヘカラス云々

重砲ハ陣地變換困難ナル故野砲ヲ隨伴スル如ク觀測所ニ推シ大里ニ前進スル也

第三十 問 題

砲兵ハ現在ノ陣地ニ於テ尙任務ヲ達成シ得ルニ拘ラス態々敵火ノ損害ヲ犯シテ約三中队ヲ前方ニ陣地變換ヲナセシ理由如何

原 案

尤モ有効ニ友軍ニ協力シ之ヲ鼓舞セシタメナリ

教、百五十四頁十三行 歩兵火ト雖モ辭スヘカラス

教、百八十四頁十四行 歩兵ノ攻撃ニ最モ適切ナル協力ヲ爲サンカ爲第一線ニ近ク

陣地變換云々

第三十一 問 題

敵砲兵ヲ發見スルヤ彈藥ヲ惜マス猛射セシハ如何ナル原則ニ依リシヤ

原 案 (一目標ニ對シ數中队集中射撃法圖例參照)

教、百七十三頁 射撃指揮ノ要件

教、百七十四頁 目標ノ選定

教、百七十四頁 火力ノ集中、正面射及斜射、側射、不意ニ敵ノ危襲

教、百七十五頁十四行 一旦射撃スルニ決セハ其目的ヲ達スルニ必要ナル彈藥ヲ使

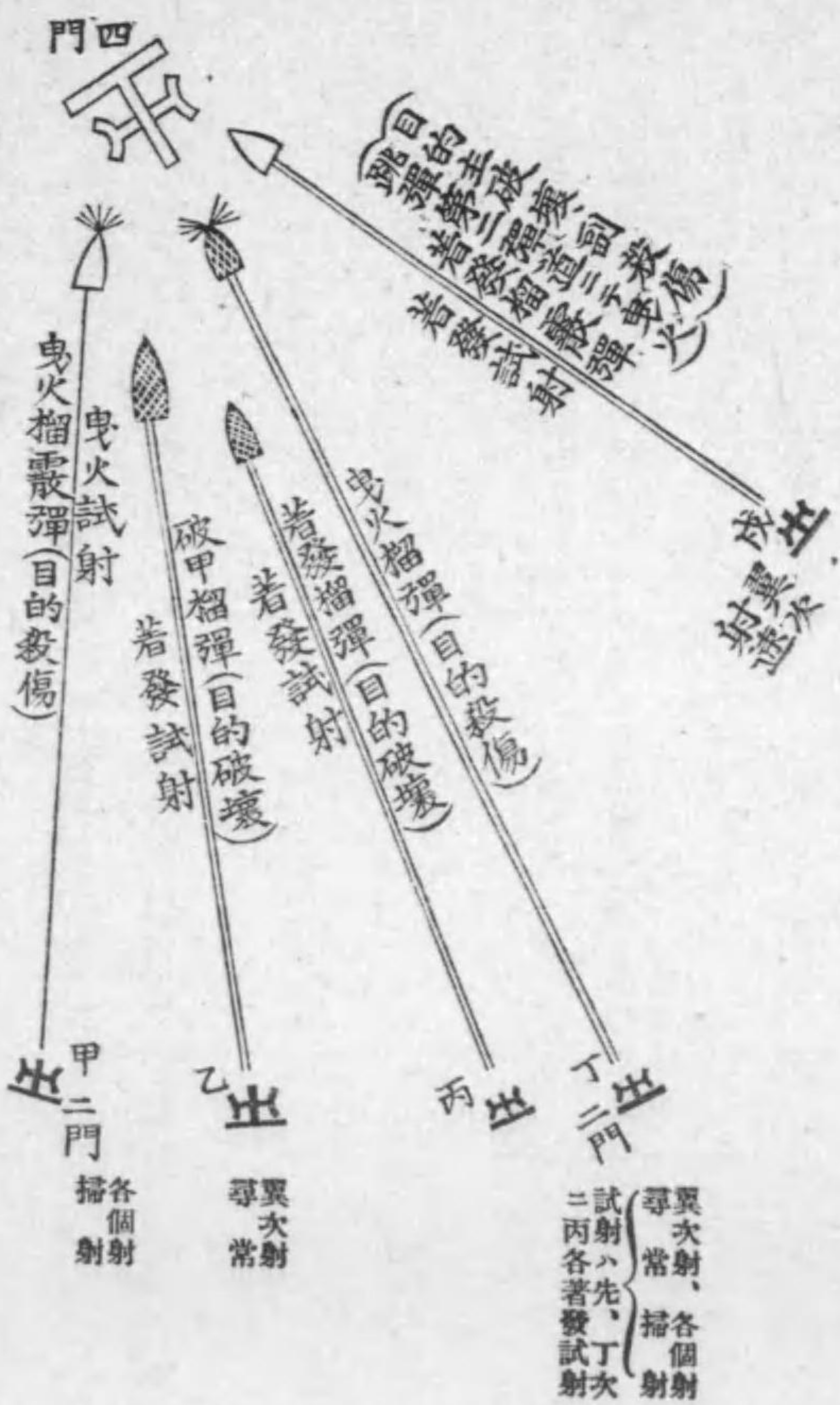
用スヘシ

第三十二 問 題

(教程卷一 百七十四頁、一中隊長ニ火制セシムヘキ云々ノ見解往々誤リ一目標ニ對シ數多中队同時ニ射撃スルハ不可能ナリトイフ説ヲ正スタメ)

一、目標ニ對シ他中队ノ射撃ヲ妨碍スルコトナク數多中队ノ射撃ヲ集中セシムル手段

野砲破中 四砲重中 門六計門二 中集ヲ門六十計門二



少ク暴露 (最初遮蔽セルモノヲ攻撃ノ進捗ニ伴ヒ稍暴露スルニ至ルモノヲアラン)

野砲彈 別法



破甲榴彈(乙 1511) 爆煙黑色土砂散飛 大々野砲榴彈(丙) ノ四五倍アリ

最新砲兵戰術 但シ上記ノ中隊數ハ殆ト最大限ナリ

戰例 1. 鴨綠江ノ戰闘

露軍ノ砲兵中隊ニ對シ日本軍 12H 五中隊、野砲數中隊ノ集中射撃ヲナシ忽之ヲ撲滅ス(露ノ砲兵暴露)

2. adun 攻撃ニ於テ佛野砲一中隊ニ對シ獨逸軍ハ、21M. 15H. 13.5K. 10

.5H 7.5 野砲合計七中隊ヲ以テ射撃セシカ敵ハ遮蔽シアリシタメ結果次ノ如シ

第一日 二門破壊 死傷續出

第二日 一門破壊 佛軍戰團繼續

第三日 殘一門ノ一部中ニ命中 同上

但獨軍機關銃ノ射撃ヲ受ケ全滅ス

第三十三 問題

野砲兵第八中隊カ更ニ西庄附近ニ前進シ加フルニ北方ニ對シ全ク曝露シテ陣地ヲ占領

セシ可否如何

原 案

適當ナリ(側射、斜射及近距離射撃ノ有利ナル圖例參照)

理由 一、是、先ニ研究セシ如ク尤モ密接ナル協力ヲナサンタメナリ

二、西庄西側ニ進出セハ假令大ナル損害ヲ受クルモ全ク敵ヲ斜射、側射シ其効果偉大ナリ(別表參照證明)

(教程百七十四頁十一行、火力ノ集中ニ方リ正面ヲ射撃スルト同時ニ斜射側射ヲ行ヒ得ルトキハ其効力偉大ナリ云々)

三、北方ニ對シ曝露シテ陣地ヲ占領セシハ尤モ有効ナル射撃ヲ爲サンカ爲メナリ而シテ損害ノ大ナルハ覺悟スル所ニシテ(教百五十四頁十一行、以下參照)西庄ニ遮蔽セハ損害ハ小ナルモ遮蔽距離大ナルト射撃開始遲緩スルトノ不利アリ(教、百六十二頁六行)此際ノ狀況ニ適合セス蓋勝敗ノ決セン

トスルニ臨ミ此砲兵ノ射撃開始ノ迅速カ友軍ニ與フル効果ハ甚大ナリ
 (教百五十九頁九行ニ曰ク砲兵陣地ハ常ニ戰鬪目的及狀況ニ適合シ)
 四、過去戰役ニ於テ砲兵ノ如是勇敢ナル行動大ニ乏シ將來大ニ發奮ヲ要ス

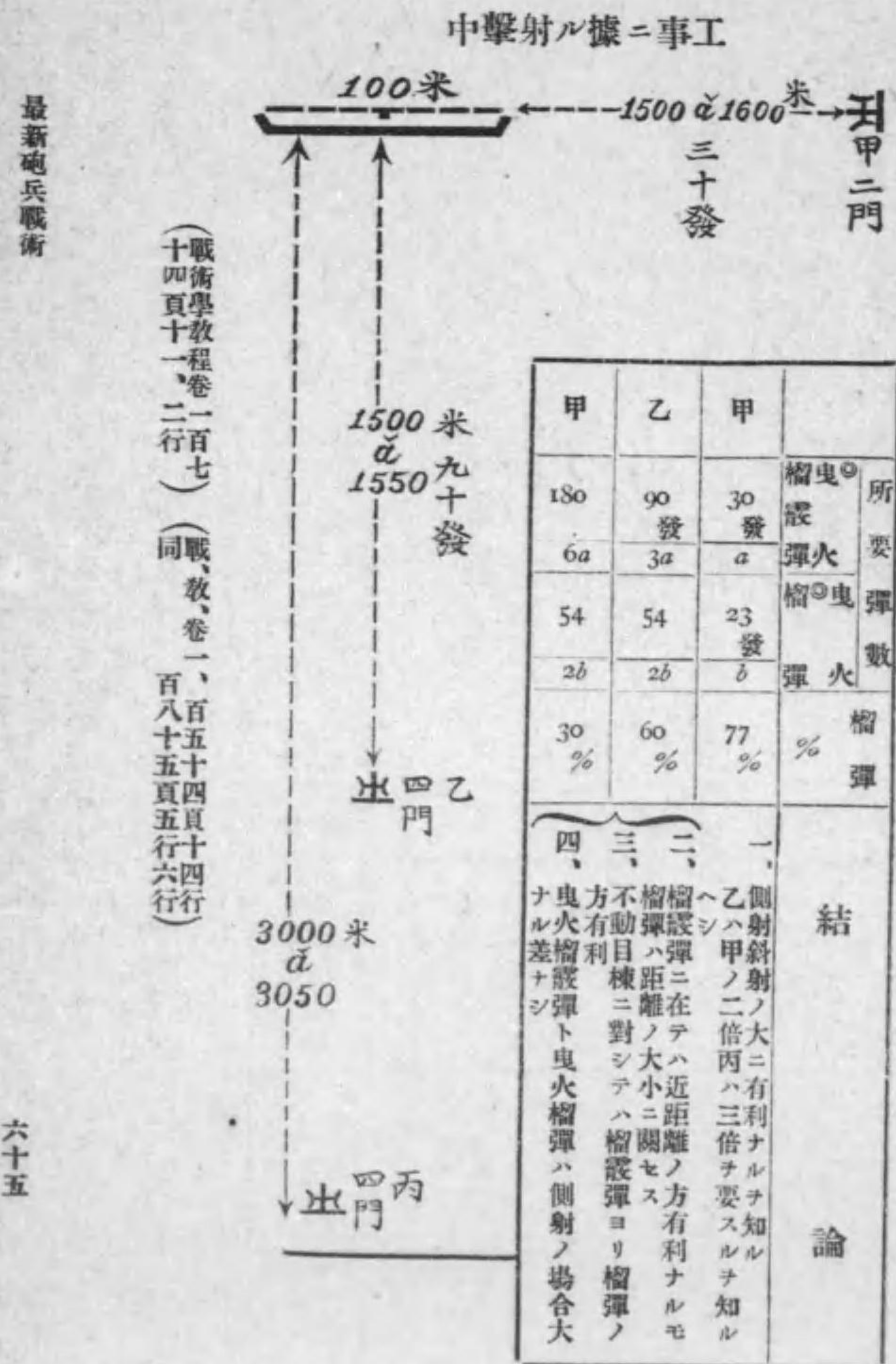
第三十四 問 題

斜射側射ノ効力大ナル證並ニ近距離射撃ノ効力大ナル證

原 案

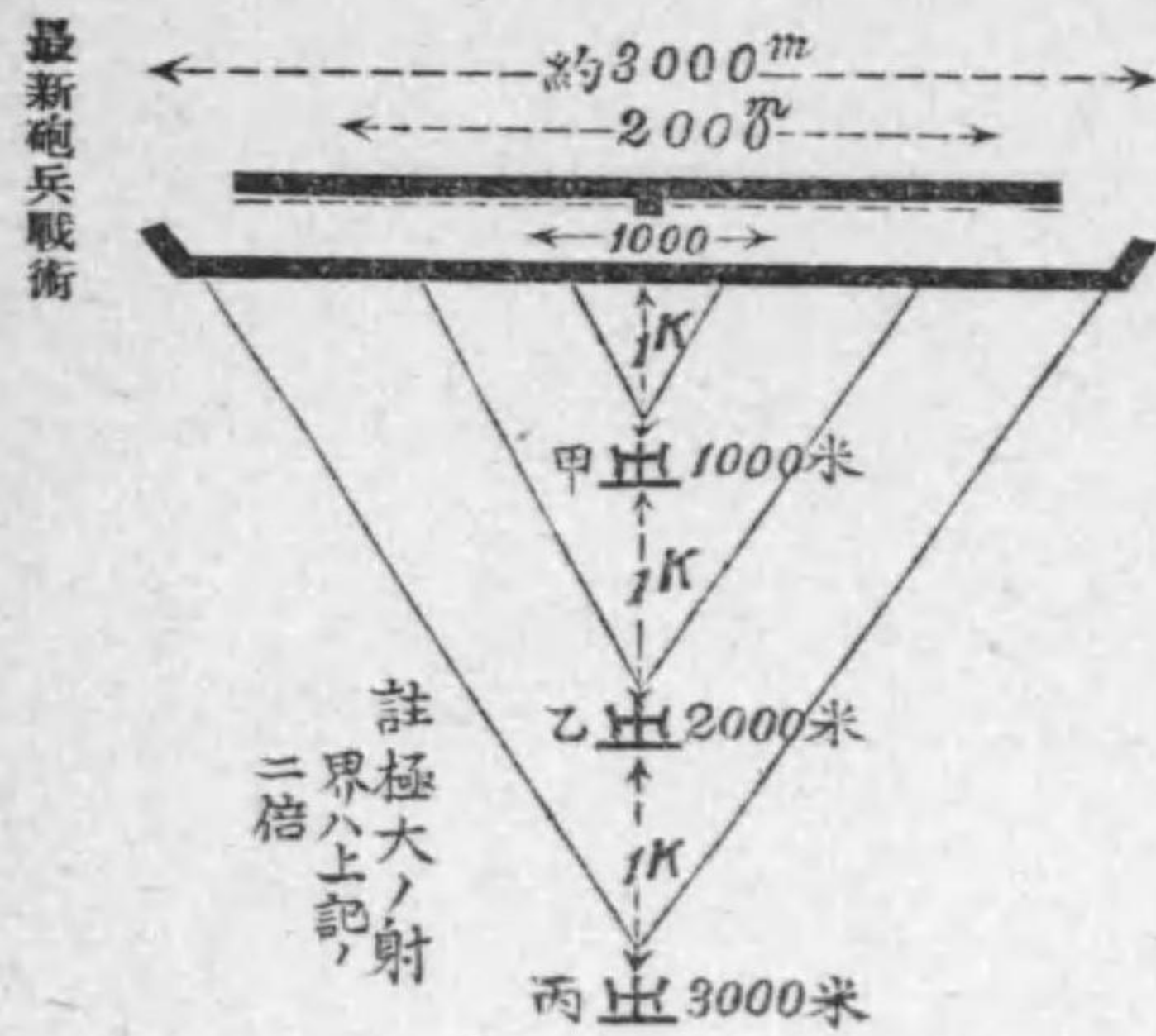
(戰術學教程卷一、百七) (戰、教、卷一、百五十四頁十四行)
 (十四頁十一行及十二行) (二同、百八十五頁五行六行)

○斜射側射ノ効力大ナル證、近距離射撃ノ効力大ナル證
 (工事ニ據レル敵散兵ニ半數ノ殺傷力ヲ與フル爲メ)



註、歐洲戰場第一概ニテ
 我砲兵ハ概ニ
 カカハ第一概ニ
 二カハ第一概ニ
 我砲兵ハ概ニ
 ヲテハ第一概ニ
 米ヨリ我砲兵ハ概ニ
 占領方ニ第一概ニ
 ナリ

第一圖

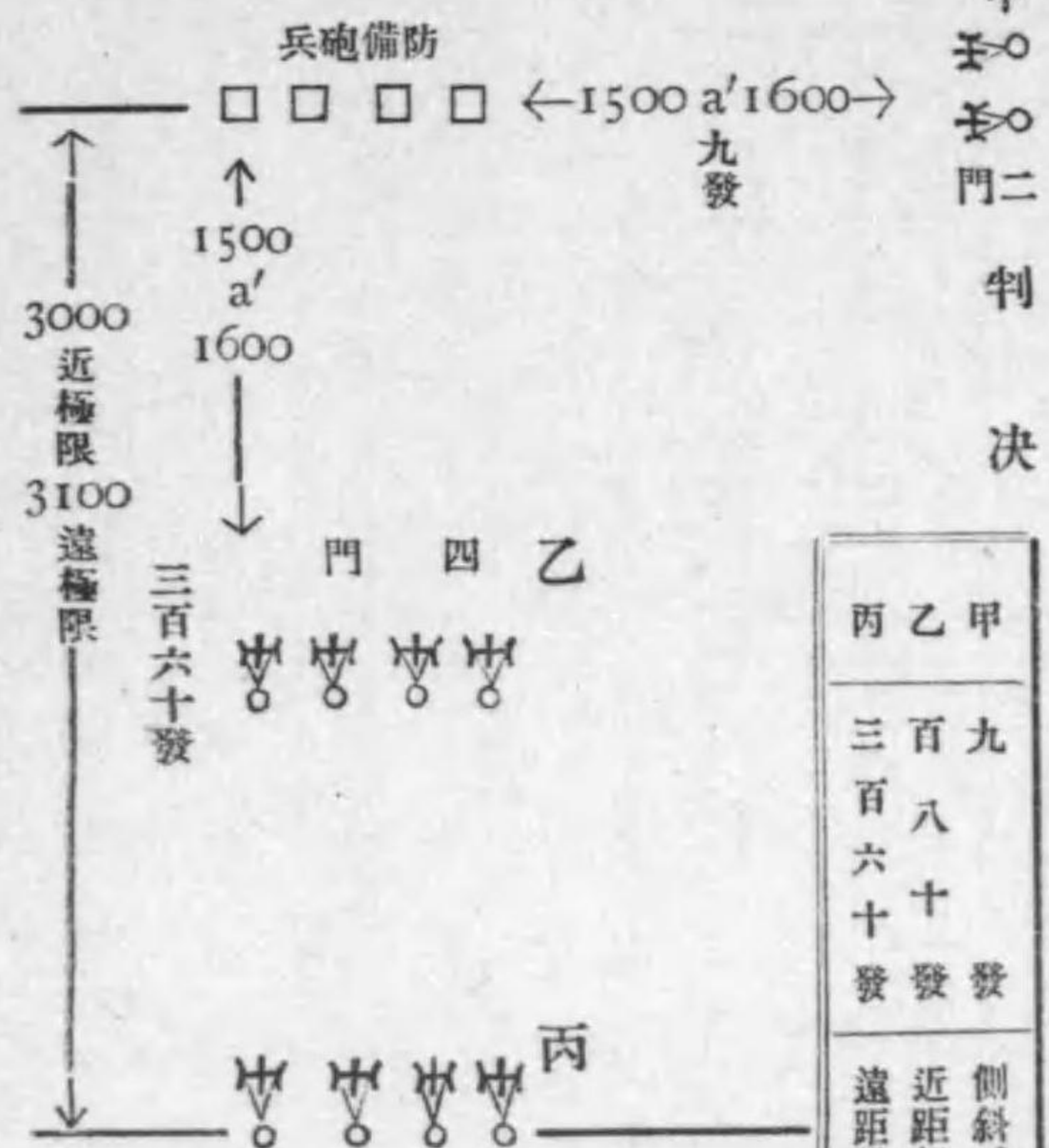


全砲兵ヲ至近距離ニ配置スルハ不利ナル證
 原案

第三十五問題

○左圖ノ如ク近距離ニ至ルニ從ヒ射界狭少且側斜射ノ利少シ
 (但、一部ハ第二圖ノ如クセハ比較的大ナル射界ヲ得)

斜射、側射ノ効力並ニ近距離射撃ノ効力偉大ナル證
 ○防備砲兵ニ對シ 50% ノ人員ヲ殺傷スルニ要スル曳火榴霰彈彈數



甲	九發	側斜、斜射ノ効力偉大
乙	百八十發	近距離比較の効力有
丙	三百六十發	遠距離比較の効力乏

若一距離ノ効力射
 甲約七發(但ニ距離チ)
 乙約百三十五發
 丙約二百七十五發

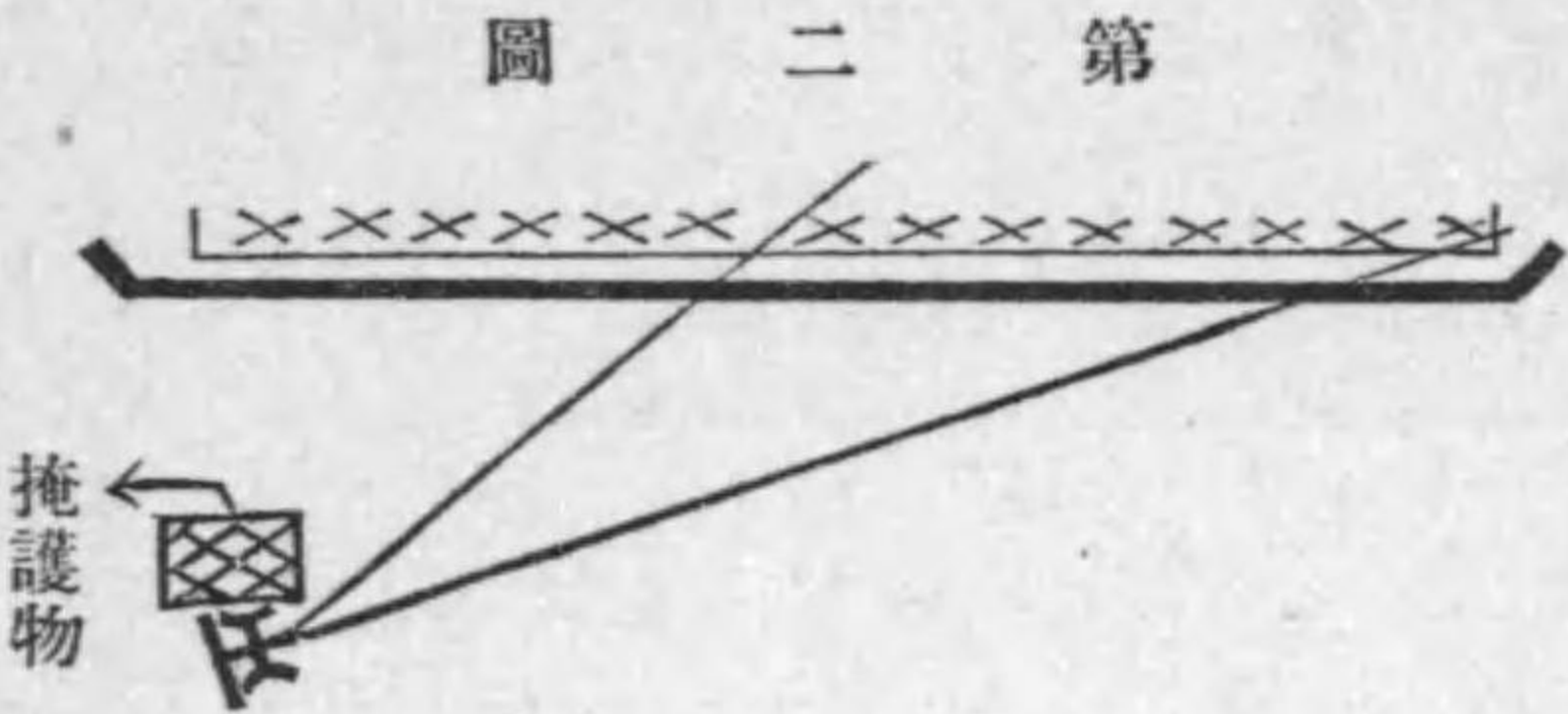


圖 二 第

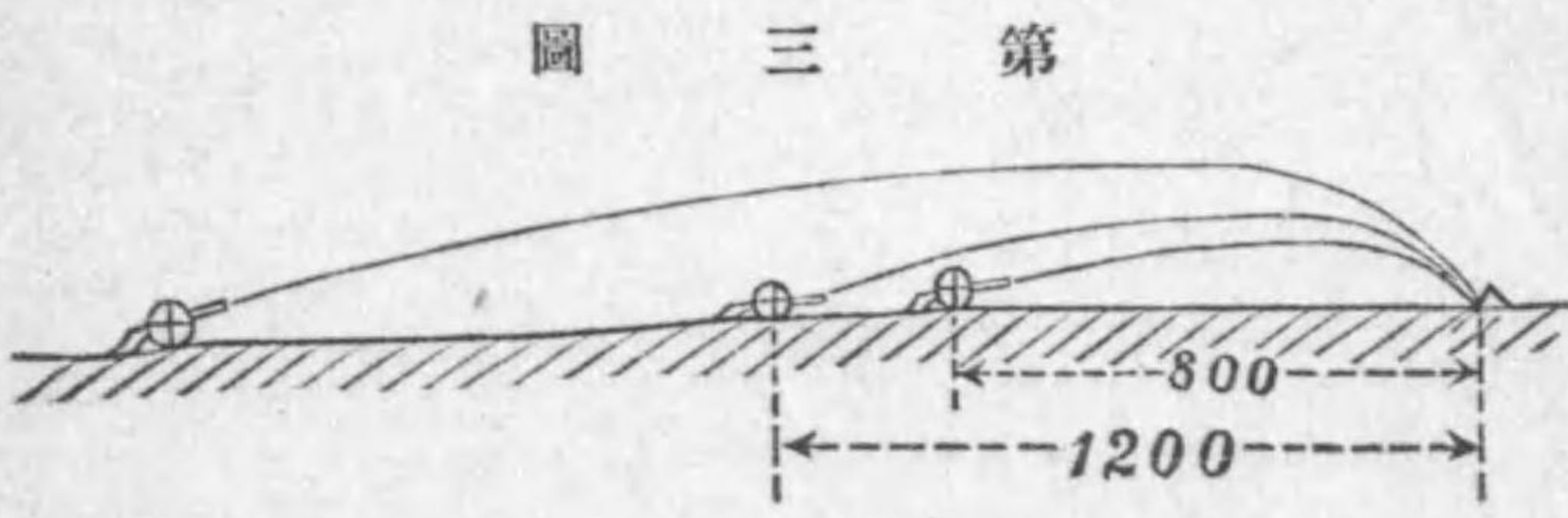


圖 三 第

◎野砲千二百米
山砲八百米
此以下正面射ニテハ超過射擊困難
◎距離ノ大トナルニ從ヒ上圖ノ如ク
彈道彎曲超過射擊容易
◎又近ケレハ近キ程彈道低伸遮蔽物
ノ利用困難ナリ
◎近キ程彈藥補充不便

第三十六 問 題

敵騎ノ襲撃ニ對シ野砲兵第九中隊長カ獨斷目標ヲ變シ之ヲ射撃シタルハ如何ナル原則ニ依レルカ

原 案

危急ノ場合ナレハ也(教、百八十四頁二行目參照)

第二十七 問 題

此危急ノ場合ニ際シ砲兵隊長及野砲兵第二大隊長カ依然舊目標ヲ射撃シアリシ理由如何

原 案

第三十九問 題

原案ノ突撃時ニ於ケル砲兵ノ射撃ヲ見ルニ火力ヲ攻撃點ニ集中セス分散シアリ其理由如何

原 案 (圖例參照)

攻撃點ハ幾何學的ノ一點ニ非ス或ル幅ヲ有スル正面也之ノ一點ニ集中セス分散セルカ如キハ各中隊ノ射撃ノ混交ヲ避ケ其射撃ヲ容易トセシ也

(敵、百七十四頁火力ノ集中ノ次參照)

又一中隊ノ尤モ有効ナル火制正面ハ百米(教程一七七頁八行)ナル故攻撃點附近ハ百米トシ其他ノ方面ハ之ヨリ廣クセリ

第四十問 題

射撃混交ヲ避クルトイフニ拘ラス野砲ト重砲トカ同一地點ヲ射撃セシ理由如何

原 案

重砲ハ此際破田榴彈ヲ用非著發シ其爆煙甚大且濃黑色野砲ハ假令著發スルモ自煙ナル故分明ニ射撃ヲ區別觀測シ得且歐洲戰ノ實驗ニ徴スルハ此二種彈丸ヲ併用スルトキハ物質的並ニ精神的ニ敵ニ與フル打撃甚大ニシテ砲兵操典ノ綱領ニ所謂敵ヲ壓倒震駭シ友軍ノ志氣ヲ鼓舞作興シテ遂ニ全軍戰勝ノ途ヲ開クニ至ルモノトス

第四十一問 題

突撃ニ當リ砲兵ノ射撃カ歩兵ノ要求ニ充分應スル能ハサリシ理由如何

原 案

歩兵ノ要求不適當ナル故ナリ何トナレハ砲兵ノ超過射撃ニハ一定ノ限度アリ加之友軍

敵ニ接近スルニ從ヒ我曳火彈ハ友軍ノ頭上ニ破裂(但危險少シ)スルハ自然ナリ故ニ歩兵ハ之ヲ熟知セサルヘカラス徒ニ我砲彈ノ頭上ニ破裂スルコトヲ恐レンカ反テ敵ヨリ大ナル打撃ヲ蒙ルヘシ故ニ歩兵ト雖モ砲兵ノ戰術並ニ其射擊學理ヲ了スルニ非スンハ砲兵ト密接ノ協力ヲ爲シ若クハ適當ナル戰法ヲ探ル能ハサルコトヲ肝銘スヘシ想起ス、日露ノ役正ニ酣ナルヤ吾人ハ屢々吾人ノ戰友ヨリ假令若干ノ損害ヲ生スルモ最後迄砲兵ノ射撃ヲ必要トスル歩兵將校ノ絶叫ヲ耳ニセリ而シテ戰後僅ニ十年大正三年青島攻城ニ際シ我陸軍ハ特ニ其精銳ヲ以テ之ヲ攻撃セリ然ルニ其將ニ突撃ヲ敢行セントスルニ臨ミ屢々砲兵ニ射程ノ延伸ヲ要求シ次テ短縮ヲ要求シ遂ニ砲兵ヲシテ其處置ニ苦マシメタルコト恰モ此日ノ戰鬪ノ如シ乞フ諸子深ク深ク吾人ノ言ヲ腦裏ニ肝銘シ爆煙ノ裏ニ敢然トシテ突入スルノ覺悟ヲナサンコト

九、結 論

(砲兵ニ對スル將來ノ希望)

而シテ一方砲兵ノ動作ヲ觀察スルニ日露戰役ニ於テ歩兵ト密接ナル協力ヲナスタメ近

ク我第一線ニ陣地ヲ變換シ友軍ヲ鼓舞セシ砲兵ハ其數甚タ少ク多クハ遠大ナル距離ヨリ効力乏シキ射撃ヲナシ若クハ僅少ナル損害ヲ受ケ射撃ヲ中絶シタル者ナシトセス是吾人ノ史ヲ讀ム毎ニ痛憤置ク能ハサル所ナリ而テ之ヲ歐洲戰ニ見ルモ佛軍ノ砲兵ハ開戰前其盛全ヲ全世界ニ馳セタルモ開戰後屢々總司令官ヂョフル將軍ヲシテ「佛軍砲兵ノ偉力ハ強大ナリト雖モ最大射程ヲ以テ甘スル傾向アリ各官ハ一層敵ニ近接シ更ニ効力アル射撃ヲナスヘシ」ト訓示セシニ徴スヘハ遮蔽陣地ノ採用並ニ射程及彈丸効力ノ増加ハ不知不識砲兵ヲシテ大ニ遠大ナル位置ト遮蔽陣地ニ固着セシムル傾向ナシトセス彼ノ青島ノ役浮山孤山ノ攻撃ニ於ケル我砲兵陣地ハ實ニ敵ヲ去ル四、五千米ナリシカ遂ニ陣地變換ヲナサ、リシハ又其一例證タル無カラシ哉(但正攻ニ際シテハ大ニ有効ニ援助セラレタル如シ)

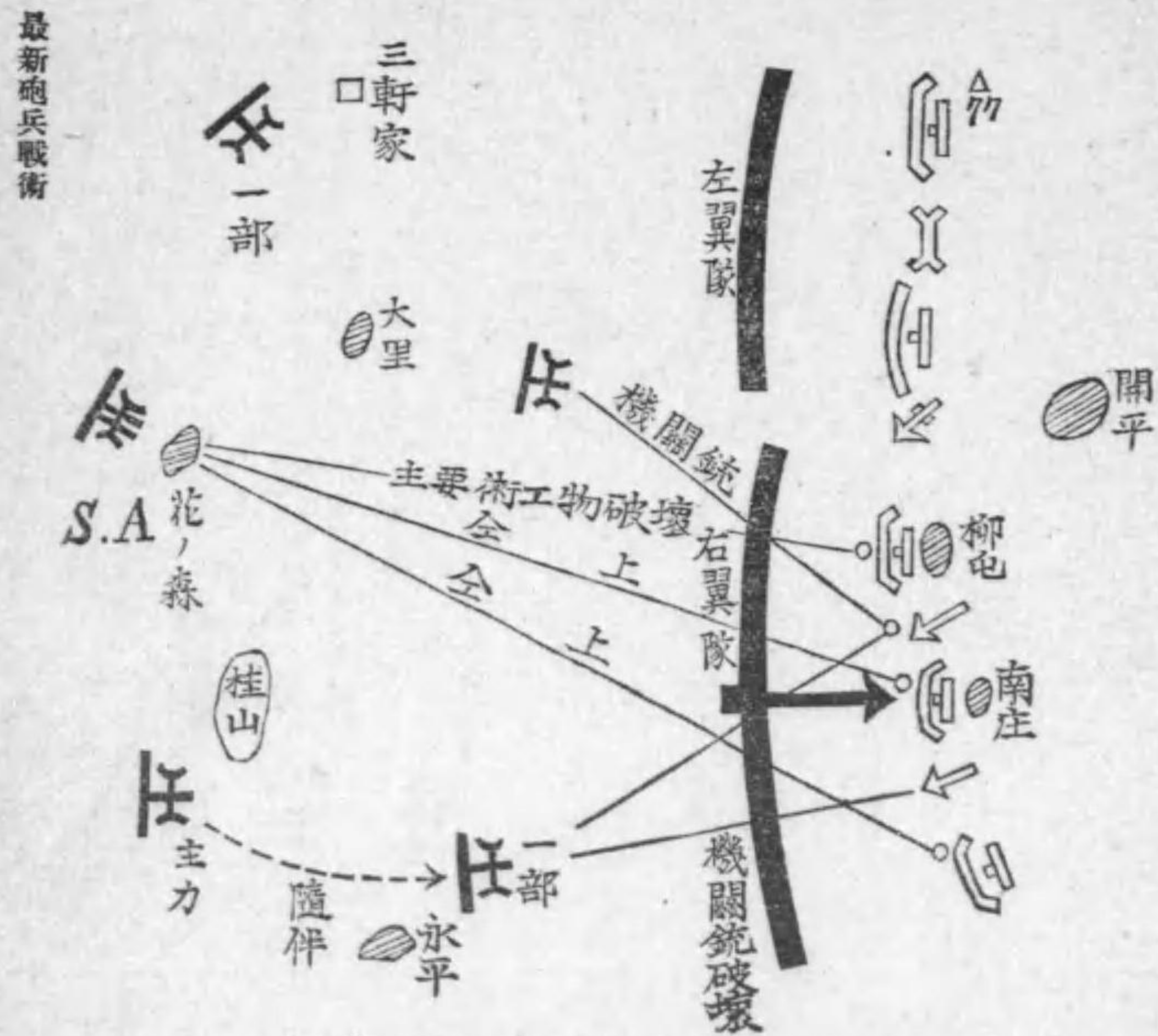
教程百五十四頁ニ曰ク

「砲兵ノ主要ナル任務ハ地形及時機ノ如何ニ拘ラス適切ニ歩兵ヲ援助スルニ在ルヲ以テ常ニ之ト密接ノ關係ヲ保ツ爲要スレハ最モ猛烈ナル敵ノ歩兵火モ之ヲ避忌スル

附 録

註師團ノ企圖ニ待
關スル兵器ノ長
ノ希望ハ明ニ示
スル程高要ス指
官教ヲ要ス指
陣官ノ注意ヲ指
揮長ノ命ヲ指
團長ノ命ヲ指
ル本則トス

師團長ノ砲兵使用ニ關スル意圖

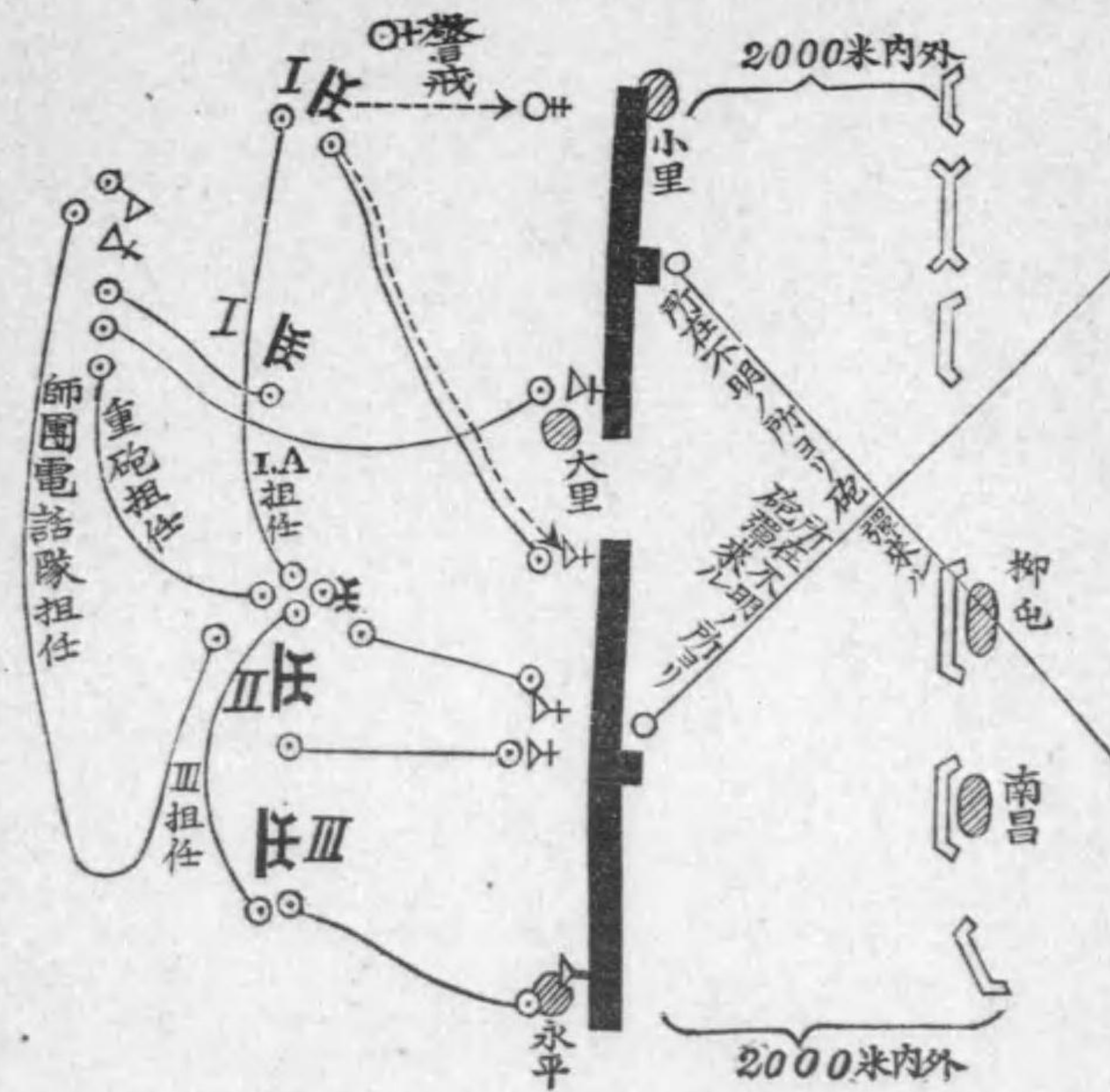


教程六百三十六頁高級指揮官ノ意圖

野砲ノ協力スヘキ隊
主力 右翼隊
一部 左翼隊

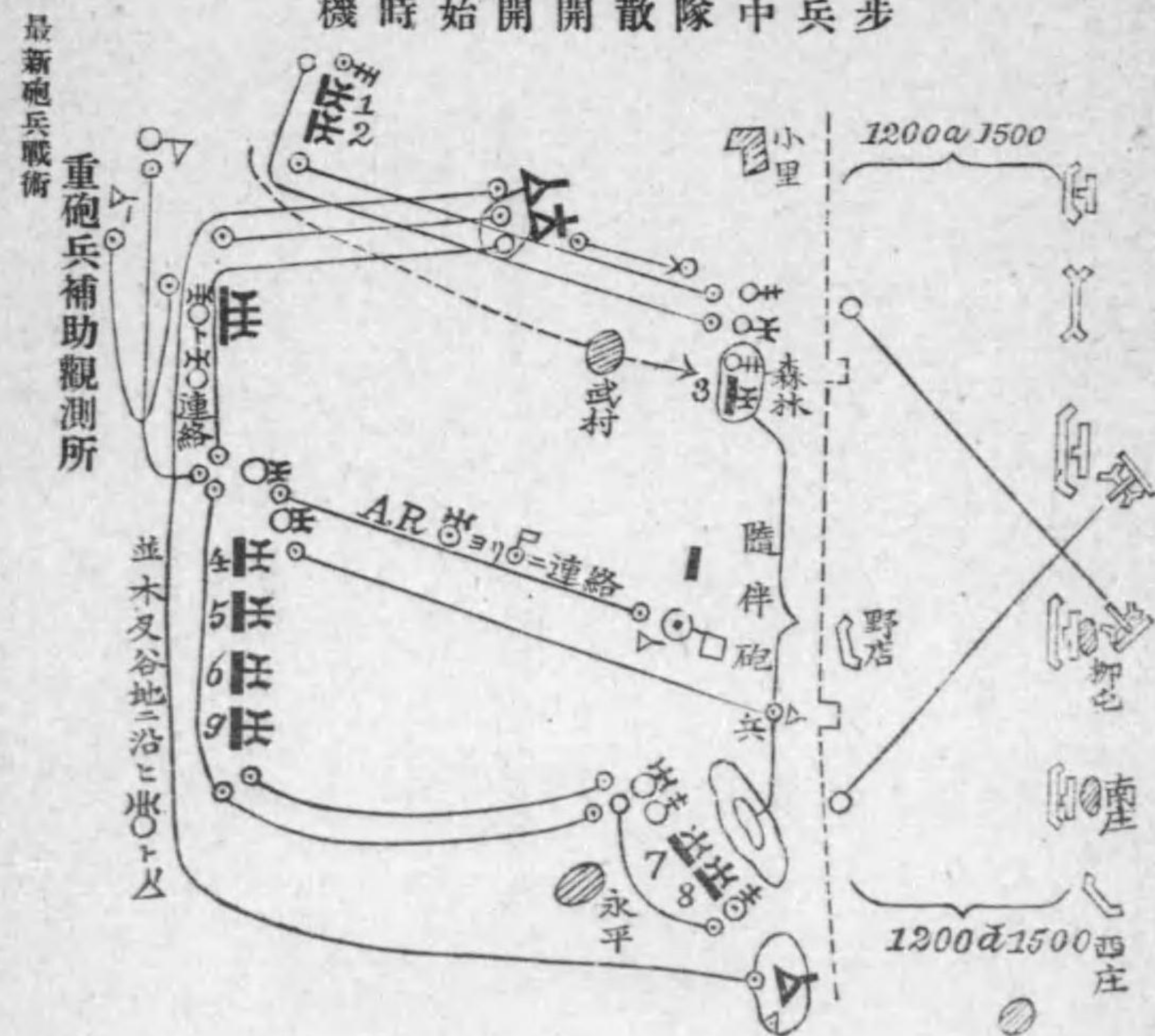
コトナク敵ニ近接シ砲火ノ最大威力ヲ發揚シ以テ我カ步兵ニ有形無形ノ至大ナル援
助ヲ與ヘサルヘカラス
而シテ是曩ニ勇敢ナル我先輩ノ日露役ニ於テ活模範ヲ示セシ所(特ニ奉天戰ニ於ケル
野砲第十八聯隊ノ行動)ニシテ又歐洲戰ノ初期ムーズ河畔ノ戰鬪ニ於テ獨逸軍砲兵カ
友軍ノ危急ヲ救ハンカ爲散兵線ニ放列ヲ布置シ其効果アル射撃ハ能ク友軍ノ志氣ヲ鼓
舞シ戰勢ヲ挽回シ遂ニ同河畔大勝ノ一因トナリシ所ナリ乃チ知ル教程ノ原則ハ今日尙
磨ノ玉條ニシテ砲兵將校ヲ特ニ肝銘シ實踐ヲ要スル金言ナルコトヲ
以上縷述セシ所ハ言稍峻烈ニ亘リ加フルニ武動赫々タル先輩ニ對シ若干痛評ニ亘ルモ
ノ無キニ非ルモ若夫レ國軍ノ將來ト未來戰トヲ想起スルトキハ一片耿々ノ氣遂ニ黙止
スル能ハス敢テ此言ヲナス所以ナリ 讀者諒焉

(備準期第二) 法用ノ兵砲
機時始開開展隊大兵步



- 教程一四頁
敵ニ近接シ友軍ニ協力
- 一砲兵隊ノ處置
二敵砲兵ノ位置又ハ其觀
測所ヲ求メ之ヲ破壞スル
コトヲ努メ尙一部ヲ前方
ニ陣地變換スル準備ヲナ
ス
三尙左ノ處置ヲナス
四觀測所ニ步兵トノ連絡
ヲ確立シ之ヲ推進(重砲兵)
五一部陣地變換ノタメ所
要ノ偵察(野砲)ヲタメ所
各中隊ハ此間成ルヘク
彈藥節約ノ爲工兵ニ進
入路地變換ノ爲工兵ニ進
チ入路及遮蔽工事ノ設備
ヲ請フ
- 同二六、二八頁
重砲隊長ノ位置
同二六、二八頁
觀測所ノ推進
- 教程一六四、一六五、一六六頁
各級指揮官位置
第一線トノ連絡ヲ
候

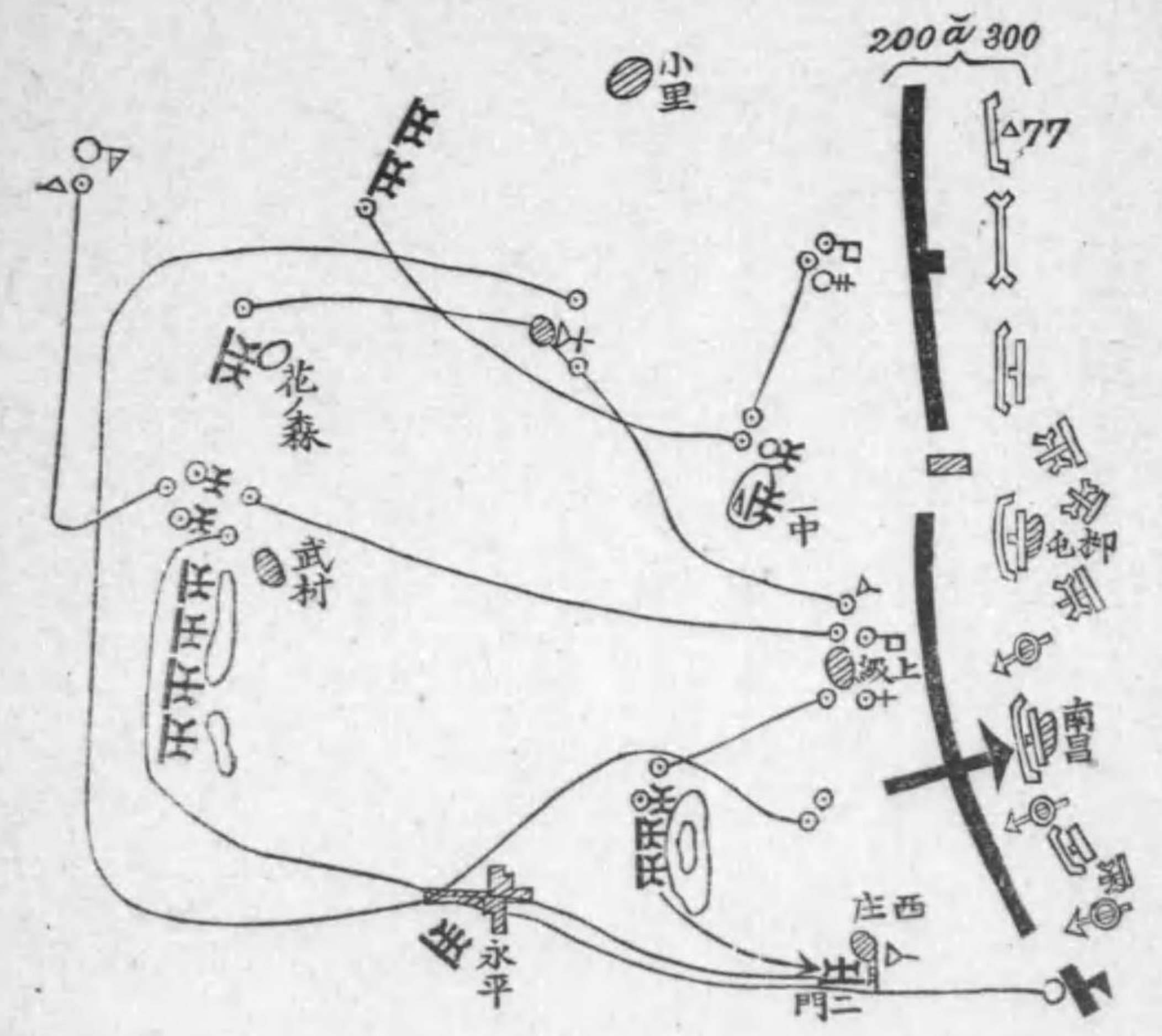
(期第二) 法用ノ兵砲
機時始開開散隊中兵步



- 教程一四頁
敵ニ近接シ友軍ニ協力
- 砲兵隊ノ處置
一砲兵隊ノ處置
二協同シテ中隊ヲシテ陣地
變換ヲナシ尤モ有効ニ
三野砲ハ觀測所ヲ前進
シ候ハ尤モ近ク若干ノ
主力ヲ以テ敵砲兵ノ
四制壓(重砲)
重要衝工物ノ破壞
- 重砲兵補助觀測所

註重砲ノ好テ地變
 換スキハ多ク
 通シテ多ク
 ナシテ多ク
 カタシテ多ク
 ラカスルハ
 變換スルハ
 機關ヲ換
 必ズ要メ
 変換スル
 得ル

(期三第) 法用ノ兵砲
 期時備準撃突



○砲兵隊
 1. 砲兵隊
 2. 砲兵隊
 3. 砲兵隊
 4. 砲兵隊

教程一五頁
 近ク接テ友軍援助
 若干門ノ例

攻撃各期ニ於クル各大隊ノ主要ナル動作

期別	重砲大隊	野砲	I.	同 II.	同
第一期 前 試射完了 後射中 止尤モ 薬ノ節 ニ努ム	敵ノ砲兵就中観測 所ヲ求メ之ヲ破壊 (一中)	攻撃準備ニ就テ動 作ヲ掩護 後敵砲兵撲滅(一 敵ノ観測勤務妨害 (一中)	所要ノ地點ニ試射 (三中)	所要ノ地點ニ試射 (三中)	所要ノ地點ニ試射 (三中)
第二期 敵砲兵ノ制壓 (一中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)
第三期 敵砲兵ノ制壓(一 敵機關銃ヲ破壊 敵歩兵射撃(三中) 二門陣地變換	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)	敵砲兵ノ制壓(一 中)

最新砲兵戰術

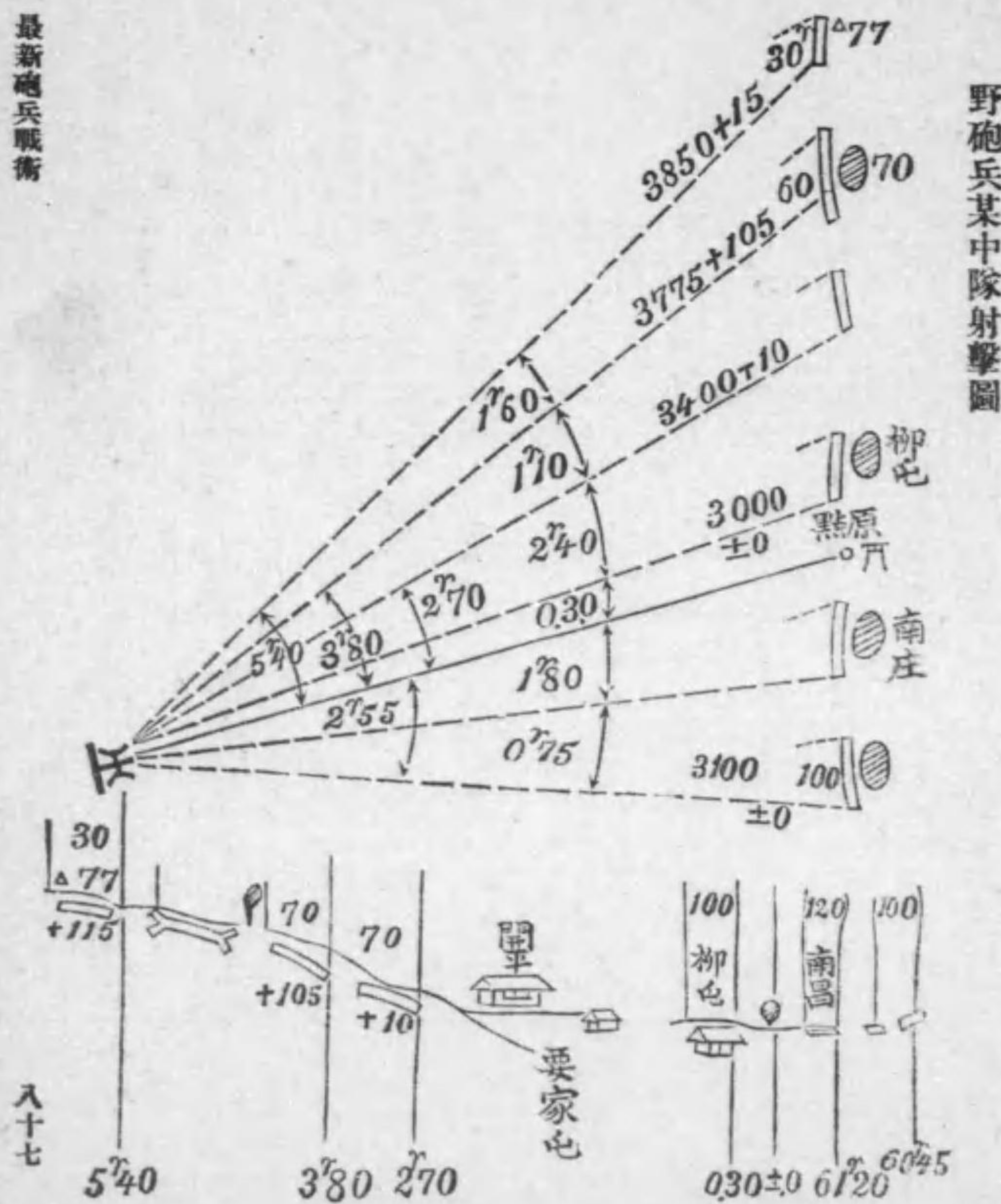
突擊準備中 （中）	術工場中ニアル機 關銃ノ破壊（二中）	敵砲兵制壓（一中）	敵機關銃破壊（一 中）
第四期 突擊直前 及突擊	敵散兵線榴彈射擊 突入時迄友軍ニ 援助シ 且第二線ノ防禦線 ヲ發見セハ直ニ之 ニ向テ火力ヲ集中 ス	敵砲兵ヲ發見セハ 之ヲ制壓ス	敵步兵射擊（二中）
	逐次破裂高ヲ低下 シ步兵ヲ射撃友軍 ニ危險ノ恐アレハ 著發射撃 尙危險ナレハ比較 的超過射撃ヲ許ス 所ノ步兵ヲ射撃 要スレハ敵ノ後方 部隊又ハ砲兵ヲ射		野砲第一大隊ニ同

註、本文中ノ情況ト稍添ハサルモノアルヲ參考ノタメ添附ス

防禦セル敵ニ對スル砲兵中隊ノ動作中射撃ニ關スル要件

期別	區分	重砲ノ中隊	野砲ノ中隊
第一期	試射	一、將來ノ射撃ヲ顧慮シ重要ナル地點ニ對シ五十夾又ハ試表尺ヲ大隊長ニ報告 二、高射界ノ射撃ヲナス場合ニハ最初低射界ニ概略ノ夾又ヲ得ルコトヲ努ム 三、敵情ヲ發見セハ報告及通報（以下各期ヲ通シテ同シ） 一、全部ヲ用フ	一、多數ノ場所ニ對シ將來距離射撃ヲナシ得ル如ク著發射撃及破裂高ノ修正ヲナシ置ク 二、大隊長ニ試表尺ヲ得ル毎ニ報告 一、敵情ヲ發見セハ直ニ報告、通報（以下各期ヲ通シテ同シ） 一、最小限度、但方向ノ修正ニハ全砲車ヲ用フ
第二期	觀測所ニ對シ （敵兵 火光發見） 機關銃破壊	一、破壞射撃 低射界一號 破甲榴彈 各砲車毎ノ効力射 一、著發射撃ヲ稜線ニ對シ行ヒ 後高射界四號ノ曳火射撃	一、觀測勤務妨碍 一、觀測所ニ對シ一門ニテ曳火射撃、指命射撃 一、稜線ニ試射シタル後敵ノ火光ニ對シ散布 一、術工物中ニアル機關銃 彈、射撃妨碍、曳火低破裂、

最新砲兵戰術



野砲兵某中隊射擊圖

註、極メテ大體ノ例トス

第三期	步兵線
<p>人馬 材料損傷ニ 對スル處置ニ</p>	<p>掩蓋ナレハ低射界一號</p> <p>一、野砲カ既ニ超過射擊困難ナ ル場合ニテモ容易ニ超過射擊 ヲシテ友軍ヲ援助ハ若野砲ト 射彈混交ノ恐アレハ曳甲榴彈 ヲ然ラサレハ曳甲榴彈ト 友軍ニ危險ノ恐アレハ逐次信 管ヲ延伸ス</p>
<p>一、人員、豫備砲手ニテ補フ 一、車輪破損、豫備品車ニテ補 一、眼鏡破損、前車ノ豫備ヲ用 一、馬、豫備馬、車長馬等ニテ 補フ止ムヲ得サレハ近距離ニ 駢ニテモ可 一、彈藥車ノ馬、全部斃レナハ 彈藥ハ砲手ニテ運搬 一、取者死セハ砲手</p>	<p>一、射擊妨礙及破壞 一、砲術工物中ニアル者</p> <p>一、攻撃點ニ對シ百米制壓其他 ノ主力方面一中隊ニテ二百米 制壓 一、攻撃方面一中隊ニテ三百米制 壓</p> <p>一、重砲ニ同シ 一、但眼鏡等ノ豫備品ハ彈藥車ノ 前車ノ中箱ニアリ</p>

野砲兵第三大隊長 某 殿

某 大 尉

野砲兵第八中隊戰鬥要報

於 西 庄 九月二十五日午後九時

一、中隊ハ夜半迄ニ戰鬥後ノ整理ノ終ラントス本日特ニ多數ノ死傷者ヲ生シタルハ恐懼ニ堪エサル所ナルモ小官以下輕傷者ハ尙止メテ敵ヲ擊滅セサレハ止マサルヘシ但、鞍馬斃死ノタメ追撃ニ際シ充分ナル活動ヲ許ササルヲ恐ル若シ約十五頭補充セラルレハ幸甚ナリ

二、今日野砲兵第八中隊ハ午後一時良郷北側ノ陣地ニ進入シ午後二時三十分開平西北方ノ敵砲兵ヲ制壓シ同三時敵火ヲ冒シテ永平東北側ニ陣地ヲ變換ス偶々敵砲兵ハ再ヒ開平西北方及南昌東南側ヨリ右翼隊歩兵ヲ猛射シ其前進遲滯セシカハ野砲兵第九中隊ト協力シテ敵砲兵ヲ制壓セシ時ニシテ敵ハ我ニ對シ猛烈ニ火力ヲ集注シ死傷續出セシカ將卒益々奮勵就中某少尉及某軍曹ノ如キハ重傷ニ屈セス部下ヲ激勵シ爲ニ某上等兵ノ如キハ一眼ヲ失フモ尙左眼ヲ以テ照準シ克ク精確ナル射撃ノ續行シ爲

ニ友軍歩兵ノ鼓舞シ其前進ヲ容易ナラシメシカ午後五時頃友軍敵ニ肉薄セントスルニ際シ一層適切ニ之ヲ援助セント欲シ自ラ一小隊ヲ率ヒ敵歩砲兵ノ掃射地帯ヲ逼迫シ疾驅シ西庄西側ニ陣地ヲ變シ直ニ南昌ノ敵機關銃ヲ求メテ之ヲ射撃セシカ南昌東側ノ機關銃ハ堅固ナル圍壁内ニ在リシカハ遂ニ效力ヲ收ムルヲ得ス之ヲ永平附近ニ來リシ重砲ニ譲リ爾後南昌西側及角面堡北正面ノ散兵壕内ニ在ル機關銃ノ破壊ニ努メ南昌西側ニテ四銃角面堡北正面ニアルモノ二銃ヲ破壊シ尙南昌及抑屯ヲ全ク側面ヨリ縱射シ以テ友軍特ニ歩兵第二聯隊ニ突撃ノ機會ヲ與ヘタリ

西庄ニ於テハ所在不明ノ砲兵ヨリ猛烈ナル曳火射撃ヲ蒙リ死傷續出セシカ力逐次豫備兵ヲ以テ補充シ尙輕傷者ノ如キハ悉ク留マリテ奮戰シ重傷者モ亦後退ヲ肯セス奮戰遂ニ斃レテ己ム

殊ニ彈藥補充ニ際シ鞍馬悉ク死傷スルニ際シテハ傷苦ヲ忍テ彈藥ヲ負ヒ或ハ砲彈ヲ抱テ斃レシカ其勇敢ナル動作ハ敵ニ尤モ有効ナル射撃トシテ酬ヒラレタリ

爲ニ日沒頃我歩兵ハ角面堡ヲ遂ニ奪取スルヲ得タリ中隊ハ更ニ前進ヲ企圖セシモ人

馬殺傷過半殊ニ輓馬ノ缺乏ハ依然現陣地ニ停止スルノ止ナキニ至レリ(要圖參照)

三、中隊ハ本夜彈藥ヲ充實シ且材料ヲ補修シタル後更ニ明拂曉迄ニ角面堡附近ニ進出シ尤モ適切ニ歩兵ヲ援助セント欲ス認可ヲ乞フ

四、本日ノ戰鬪ニ徴スレハ榴霰彈ノ圍壁ニ對スル効果甚乏シキ如シ特ニ多數ノ榴彈ヲ供セラルレハ幸ナリ

五、死傷者及消費彈藥概要次ノ如シ

人	死	何少尉以下	二十名
	重傷		六十名
	輕傷	某大尉以下	五十名
	健康者		十四名
馬	死		五十頭
	傷		二十三頭
	殘		十二頭

材料

砲一門

修理中

彈藥車一輛

全ク破損

其他部品等戰鬪ニ支障ナシ

彈藥(消費)榴彈

一二〇發

榴霰彈

八〇〇發

(殘)榴彈

ナシ

榴霰彈

一〇〇發

大正七年十月五日印刷
大正七年十月七日發行

不許
複製

發行所

編輯者兼

東京市四谷區本村町九番地

安西理三郎

印刷者

東京市芝區新錢座町十番地

齋藤千吉

印刷所

東京市芝區新錢座町十番地

近藤商店

東京市四谷區本村町九番地

菊地屋

軍事學指針社

電話番町五二七九番
振替口座東京九〇三二番

實費 金五拾錢

!! 軍隊教育ノ光明 !!

大正時代ノ眞想ト着眼 軍隊教育

定價金卅五錢
郵税金四錢

▲改正新教育令ニ依リ出版セラレタル

本書ノ特色

本書ハ著者多年ノ經驗ニ基キ軍隊教育ノ現況ト時弊トヲ看破シ青年將校ニ教育上ノ指針ト教育技能増進ノ基礎ヲ與フルヲ目的トシ原則的研究ヲ主トシ之ニ當局者ノ意ヲ附シテ其眞想ヲ明カニシ且自己ノ經路ヲ附シテ教育上ノ着眼點ヲ示シタルモノニシテ教育上ノ好侶伴タリ

著者ハ目下聯隊附中佐トシテ卓識經驗ヲ有シ從來教育界ニ多大ノ貢獻アリシ人ナリ從テ本書内容ノ杜撰ニ非サルコトヲ附記ス矣

發行所

東京市四谷區
本村町九番地

(振替口座東京九〇三一番)
電話番町五二七九番

軍事學指針社

7.1.22



319
404

終

